

第55号

学体連会報

平成 30 年度



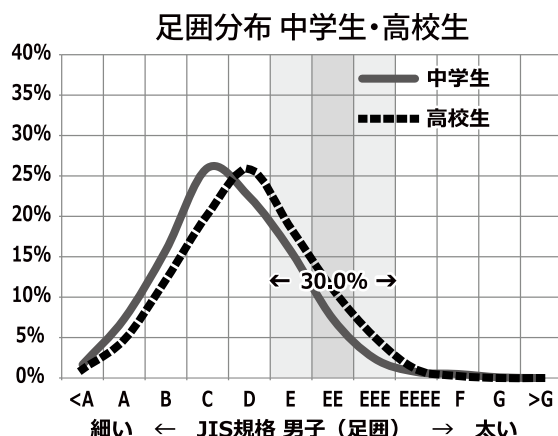
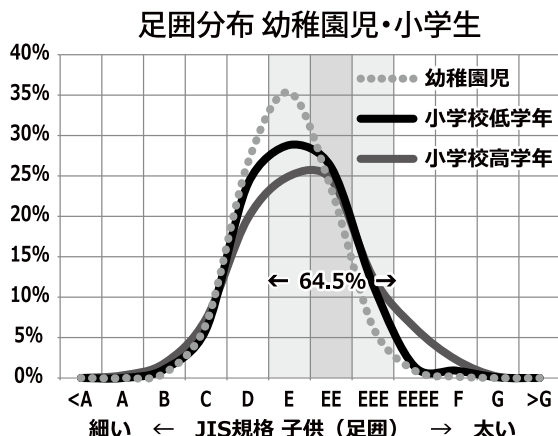
公益財団法人 日本学校体育研究連合会
(<http://www.gakutairen.jp>)

体育用具・用品 認定制度誕生

単ワイズの靴では足囲の適合率が低く、足への影響が懸念される

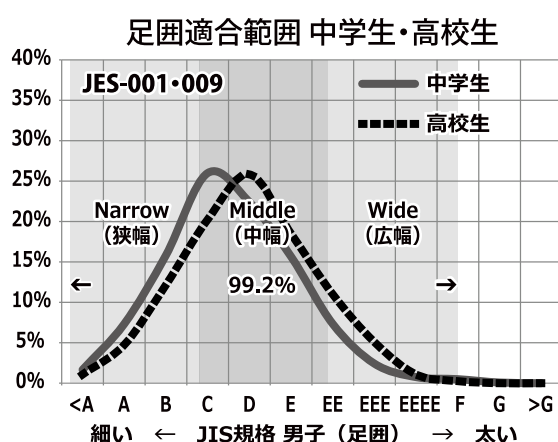
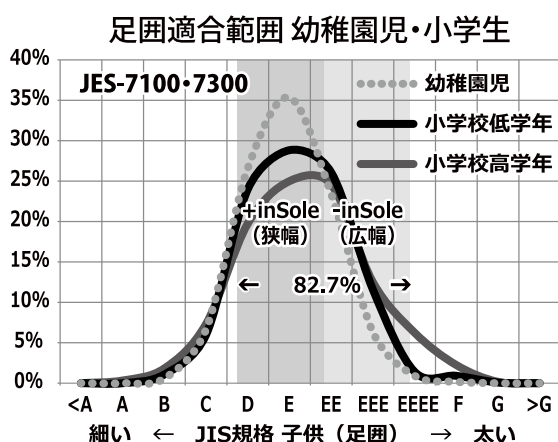
子どもたち 10,000 人の調査の結果、足囲の適合率は、主に市販されている「EE」では、幼稚園児・小学生の 24.7%、中学生・高校生の 9.2%。「E~EEE」では幼小 64.5%、中高 30.0% でした。

子どもたちが園や学校で使用しているシューズの大半は単ワイズなので、足囲の適合率は、幼稚園児・小学生で 30% 程。中学生・高校生では 10% 程と考えられ、健康や安全、運動の質の低下が懸念されます。



足幅対応“JES足守シューズ”の開発

私たち JES は、健やかに足を育むシューズを目指して、足幅対応シューズの開発と普及を進めてきました。その科学的根拠と効果が認められて、(公財)日本学校体育研究連合会から、足幅対応“JES 足守シューズ”などが、特に優れた体育用品として“認定”を受けました。



児童生徒の安全確保や、体力向上のため
学校体育用具・用品の、ご検討・ご選定にご活用下さい。



あし もり
みんな足守

日本教育シューズ協議会

本部事務局 東京都千代田区岩本町3-3-4
〒101-0032 TEL(03)3862-8684 FAX(03)3862-8632

「改訂学習指導要領

体育・保健体育で育てたい力は何か その2」

会長 本村清人



西日本豪雨、北海道胆振東部地震で大きな被害にあった方々に対して心からお見舞いを申し上げます。

さて、平成三十年三月三十日、高等学校学習指導要領が改訂公示されました。これで幼・小・中・高の学習指導要領が揃いました。この改訂時に合わせていつも言われることがあります。「やっと現行の学習指導要領になじんだところでまた新しいものになる」、「ついていけない」などの声です。果たしてそんなに大きく変わっているのでしょうか？ 学習指導要領の新旧対比表を見せられてその表記等の違いに惑わされたり、変わったところが強調される余り「ついていけない」ということになったりしてはいないか。

90度変わることもない。社会や子供たちの変化に対応して、十一年先、二十年先を見据えて必要な資質・能力は何か、各界の有識者の議論を経て改訂公示されています。つまり、現行学習指導要領はもとより、その前の学習指導要領の趣旨も生かされているということです。「生きる力」がその代表例です。その教育理念、意味するところは今回の改訂でも変わっていません。課題解決力の向上が課題であることは従前から指摘されてきたことです。「思考力・判断力」に今回「表現力」が加わりこれらの充実・向上が強く求められています。かつ、いわゆるアクティブラーニング、「深い学び」が強調されています。本来、学習指導要領は子供たちの発達段階に応じた学習内容を公示するものであり、指導方法は学校現場の教員に委ねられてきました。教員の指導の工夫に待つところ大であったわけです。そこにある意味、国が指導方法まで踏み込んできたと考えるべきではないでしょうか。ただ話し合いをさせていけばよいわけがありません。体育の場合、言語活動の重視、課題の発見、その解決のた

めに話し合う場面が多くなってきた実態がありますが、子供たちの運動欲求や、技能・体力の習得・向上への欲求が満たされているのか疑問に思う場面も少なくありません。これまでの指導実績に自信を持つことと、新しい学習指導要領の中から何と何を取り入れ改善していけばよいかしつかりと考え、授業力と教員力を高めていく。このあたりに教員の専門性があるのではないかと考えます。

今回の会報では、一昨年度からシリーズで始めた座談会の第三回目の内容をお伝えしています。テーマは、「学校体育に求められている改革とこれからの保健体育」です。言葉を換えれば、新学習指導要領が目指す体育・保健体育で育てたい力は何かということに迫る座談会です。このほかに、全国学校体育研究最優秀校（文部科学大臣賞）と昨年度から発足した体育授業優秀教員紹介、実技指導者講習会の実技内容のポイント等があります。大きな示唆を得ることができます。これらの情報を参考に授業の充実が一層図られることを期待しております。

表紙にある学体連ロゴマークについて



(財)日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシェーマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。(会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職）)

目次

- ・ 会長挨拶 1
- ・ 座談会 2
- ・ 全国学校体育研究大会近年度開催地紹介 15
- ・ 第56回全国学校体育研究大会和歌山大会を終えて 16
- ・ 第57回全国学校体育研究大会佐賀大会開催にあたって 17
- ・ 佐賀大会分科会授業の見どころ 18
- ・ 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介 21
- ・ 体育授業優秀教員紹介 22
- ・ 全国学校体育実技指導者講習会について 23
- ・ 平成30年度 足育（あしいく）の推進について 27
- ・ 平成29年度賛助会員（個人）一覧 36
- ・ 平成30年9月期賛助会員（法人）一覧 37
- ・ 広告 38

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：本村 清人
発行日：平成30年10月22日
mail: gakutairen@msb.biglobe.ne.jp

座談会

日時 平成三十年七月二十一日(土) 午後一時から
会場 公益財団法人日本学校体育研究連合会事務局

新しい学習指導要領に向けた動きと運動し、「学校体育に求められている改革とこれからの体育・保健体育」をテーマに、シリーズで座談会を実施します。

今回は、「体育・保健体育科における主体的・対話的で深い学びの実践」について話をいただきました。

菅原事務局次長

《挨拶》

事務局次長の菅原です。きょうは暑い中、ありがとうございます。

私は、埼玉出身ですので、埼玉の教育がどのようなになっているのか、きょう皆さんがどんなお話をなさるのかを楽しみにまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

吉原理事

《趣旨及び進行について》

本日の座談会では、次の三つの柱でお話を進めていただきましたと考えております。

一点目は、現行の学習指導要領における各校種の実践を通した成果と課題を踏まえ、次期学習指導要領につなげたいこと。

二点目は、体育・保健体育における「主体的・対話的で深い学び」の実践。なぜ、「主体的・対話的で深い学び」の学習過程が重要なのか、具体的にはどのような取組が求められていくのかということ。三点目は、変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たちに必要となる三つの資質・能力の柱について先生方のお考えやご意見を伺えたらと思っております。

なお、私も今回の座談会に参加させていただく場面があるのかと思います。ご承知おきください。

座談会の進行につきましては、

学体連理事長の日本体育大学教授、岡出美則先生にお願いいたします。岡出先生、よろしくお願いいたします。

岡出理事長

本日の進行を務めさせていただきます岡出です。よろしくお願いたします。

では最初に、皆さんから自己紹介をお願いしたいと思います。

河野 裕一先生(小学校)

埼玉大学教育学部附属小学校で、この4月より副校長を拝命いたしました河野 裕一と申します。

今年度、残念ながら授業ができなくなりましたが、昨年度までは、子供たちと一緒に体育の授業を日々行っていました。

きょうはこれまで実践してきたことについて、お話をさせていただきますとともに、勉強させていただければと思っております。

西川 光治先生(中学校)

嵐山町教育委員会指導主事の西川と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は、昨年までは、県の教育委員会の保健体育課で、中学校の体育担当をしていました。

この四月から嵐山町の教育委員会に勤務しており、体育のことを中心とした仕事ばかりではないのですが、今までやってきた経験等について、きょうはお役に立てればと思っております。

岡出先生とは長期研修の際に指導教官ということでお世話になりました。きょうお会いできるのをとても楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。

小村 純先生(高等学校)

所沢高校の小村と申します。よろしくお願いたします。

私は、定時制教頭二年目になります。その前は、県庁のスポーツ振興課、総合教育センターにおりました。その折、岡出先生には長期研修の件で指導をいただきました。

西川先生にも、河野先生にも、様々な場面で関わらせていただけてきているので、きょうはとても楽しみにまいりました。

今、教頭という立場でありますので、学校改革ということにつきましましては、非常に興味はもっております。少しでも勉強できればと思っております。よろしくお願いたします。

座 談 会 出 席 者



埼玉大学教育学部附属小学校
副校長

河野 裕一 先生



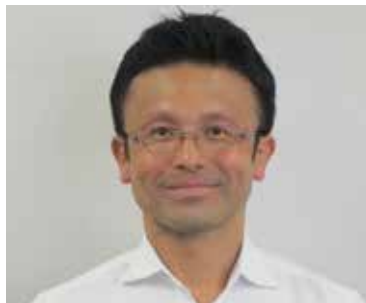
日本体育大学
教授

岡出 美則 先生



桐蔭横浜大学
客員教授

吉原 昌子 先生



埼玉県立所沢高等学校
教頭

小村 純 先生



嵐山町教育委員会
指導主事

西川 光治 先生

岡出理事長

それでは、座談会に入ります。
今回の座談会のテーマは、「学校
体育に求められている改革、体
育・保健体育における『主体的・
対話的で深い学び』」です。

このテーマに関して、これか
ら皆さんにご意見をいただくこ
とになりますが、まず最初に、
現行の学習指導要領の実践から
次期学習指導要領につなげたい
と考えておられること、各校種
の成果と課題を踏まえてお話し
いただきたいと思います。

河野 裕一先生（小学校）

まず自分自身の実践を振り
返ってみますと、教えることは
教えて、考えさせることは考え
させるということを授業の基本
としてきました。また、小学校
は体づくり運動系以外は、二年
間のまとめで取り組めるので、
系統性を意識した授業、課題解
決のサイクルを意識した授業、
運動量が確保される授業といっ
たことを意識して指導してきま
した。

こうした授業を通して、子供

たちが動きのポイントや運動の
行い方が「わかる」、技能として
「できる」ということを繰り返し
ながらの学習ができるように
なつたと感じています。

そして、この「わかる」と「で
きる」を繰り返している姿が、
今求められている「主体的・対
話的で深い学び」につながって
いくのではないかと、自分自身
は捉えているところです。

課題としては、新学習指導要
領にも示されております、運動
への二極化が小学校は顕著だと思
っています。この二極化とい
うのは、「できる」、「できない」
という二極化とともに、運動が
好きな子とそうでない子の振り
幅が、大きくなつたのではとい
う気もしています。

岡出理事長

ありがとうございます。今
のお話の中で、多分中高では
もつと顕著に出るかもしれない
二極化というものに関して、
運動をする子・しない子の二極
化とともに、あることは得意だ
けれどもあることは全然だめみ
たいな、そういう子供たちも、

ひと昔前に比べると増えているのかなという印象があります。それは、学年が上つていけばいくほど、顕著になるのかなという気もしているのですが、そういう観点で言うと小学生はどのような様子ですか。

河野 裕一先生（小学校）

やはり社会体育等の関係で、自分が得意な運動種目には非常に自信をもっていますし意欲もあります。しかし、例えばサッカー少年団に入っている子が、器械運動や水泳をやるとなると、途端に運動への意欲を失ってしまふということがあります。

ただその背景には、私たち教員が、技能的なことを求めているというか、「できることがいいことだよね」というような価値感を、いつの間にか子供に押しつけてしまっていたのではないかという反省もあります。

岡出理事長

ありがとうございます。
今のお話を伺って、中学校ではどんな状況でしょうか。

西川 光治先生（中学校）

平成十年の学習指導要領改訂のときには、中学校は運動量、体力向上、そして学習規律、いわゆる態度面などについて重点的に取り組んでいたと思います。特に、埼玉の体育の授業は、そのような印象をもっていました、私自身も、先輩方の授業を見ながら、そうであるべきなんだなと感じていました。

その後、平成二十年の改訂時は、指導内容の面なども大きく変わったなという印象を受けました。

技能、態度、知識・理解を子どもたちにバランスよく身に付けさせなければならぬということ、そのときに改めて学んだように思います。

そのような中で実践してきたわけですが、一年間の中で自分が「いい授業ができた」というのは何回ぐらいあったかというのと、本当に数回ぐらいいしかなかったと思っています。

この十年間の後半の五年間は、教育行政という立場で他人が行う授業を見る機会が多くなってきました。そうすると中

学校で良しとされる授業というのは、学習規律がしっかりと確立し、教師の指示できちんと動けるのがいい授業という方向性になっていったように感じています。また、きちんとしているからこそ、運動量も確保されて、研究協議等では、「運動量がありましたね」という話になっていました。

そうした時に、本当にぎょうの一時間で、子供たちに何が身に付いたのかということになると、あまり明確でないところもあつたと思います。

今回改訂された新しい学習指導要領では、指導内容の中で示された技能と知識が一緒になり、思考力・判断力に表現力という文言も入ってきました。そうなる教師が意識して、意図的にそういうことを考えた授業づくりをしていかななくてはいいないと強く感じています。今の立場で現場の先生方に伝えていくたらいいなと思っています。

岡出理事長

今のお話の中で、運動量とか体力等が出ましたが、その授業

の中でも、先ほどの河野先生のお話にも関わりますけれども、子供たちが考える時間帯とか、それから子供同士が、教え合ったりする時間帯とか、多分あつたのではないかなと思うんですよ。

思考力・判断力と言われながらも、獲得した知識を使っているに伝えるとか、あるいは人の話を聞いて、それを自分で使ってみるとか、そういう過程があると思います。しかしそこには、

現行では表現力という言葉が書かれてはいませんが、でも実際にはやっていたと思います。

それでは子供たちの教え合いみたいなものがうまくいっているときとうまくいかなかったときと、振り返ってみて、どういうことが決め手になったかを伺えないでしょうか。

西川 光治先生（中学校）

確かに意図的に考える場面とか相談場面という時間を作っていたと思います。しかしながら子供たちが考えて、いざゲームとなつてやってみたらうまくいくときとうまくいかないときが、

ありました。うまくいかないと、そのための相談がまずかつたのではないかと考えていた自分がいたように思います。

逆に、その相談したことがうまくいった場面だと、「思考判断と技能がうまくつながったのかな」というくらいの感覚でした。しかし、その時間をもっと増やそうというところまでは至ってなかったと思います。

河野 裕一先生（小学校）

小学校では、そういった場を意図的に設定はするんですが、低学年などは、必要がない話し合おうとしません。ですので、いかに子供たちに関わり合うことへの必要感をもたせるかというところがとても大事だと感じています。

また、「何を話し合うのか」という視点も大切だと思います。例えばゲーム・ボール運動の領域で、「作戦について話し合いなさい」とぼんやりとしたものを投げかけてしまうと、話があちこち行ってしまうので、全く整理ができません。しかし、「役割について話し合おう」や、「動き方

について話し合おう」などと、明確な視点を示すことで、子供たちの話し合いや関わり合いは大きく変わると思っています。必要感とその視点の示し方が、小学校ではとても大事だと感じています。

岡出理事長

今のお話は、西川先生のお話とも関係があると思います。話し合ったけれども、それが例えば技能とかになかなか反映されない、何で話し合ったんだろうということになり、話し合うことに価値付けできなくなってしまう子供もいると思います。

そういう意味では、話し合ったことが確実に成果として確認できるしつらえというのは、なかなか思っているほど簡単ではなくて、話し合っている意味を感じづらいのかなと思うことがあります。

高校生の場合は、小学校でも中学校でもそういうことを通過してきているので、逆に言うところ「そういうことをしても無駄」とか、あるいは「こういうことをやったほうがいいんじゃないの」

といった思いが、小学校、中学校よりも多分強くなっているという気はするんですね。

高校の場合に難しいのは、指導要領の全面実施が、小中に比べて遅いですよね。現行の要領でようやく一回りしたところだと思ふんですよ。

その段階で、高校の実践について振り返っていただくと、うまくいっていること、いつていないことの把握がまだ不十分かもしれません。

その中で、新しい要領の要求事項が、どのように感じられるのかも少し補足していただければと思います。

小村 純先生（高等学校）

現行の学習指導要領の実践から次期学習指導要領につなげたことについて考えてまいりました。

高校の実践として、重点化してきたことが三つあります。

一つ目は、岡出先生がおっしゃっていましたけれども、やはり小中で経験してきた子たちが高校に来ているということで、私が見ていて感じたことは、「生

きる力」といったものをすごく意識してきているなというところですね。

二つ目は、これは課題でもあると思いますが、『指導と評価の一体化』ということが言われ、それを重視した実践が求められました。

子供たちは小中学校で経験している。でも高校の教員はそういう実践がまだ不十分であるというところにギャップがあつて、苦しんでいる先生方の姿も見えました。

先ほど、西川先生からもありましたが、体育の授業のとらえが体育＝体力、技能がよいこと＝評価が高いといった傾

向があつたように思います。

それが埼玉の体力を支えてきたという面もあるかと思いますが、そのあたりでギャップに苦しんでいる先生がいらしたなというところを感じました。

三つ目はそうした中、埼玉では協調学習というものを進めてまいりまして、次期学習指導要領を意識した取組が、先行的に実践されてきたことです。そうした実践を通した成果としては、「主体的・対話的で深い学び」に對するとらえは、抵抗無く取り組んでいると思います。

課題としては、観点別評価のような多面的な評価について難しさを感じていることだと思います。

岡出理事長

二点、補足していただいたほうがいいのかと思います。一点目は、協調学習という言葉を出していただきましたが、その中身についてのご説明と、「主体的・対話的で深い学び」とそれがどのように関連づいてくるのかという点です。今回の解説書では「キョウドウ」の漢字が何

度も変わりました。結果、協力・働くの協働だけが残りました。

これは、高校だけの話ではなくて、中学校も小学校も、「埼玉県の場合は協調学習でやっています」とうたわれていただけです。ですから、そこが実態としてどういうものであったかというところと少し補足していただければと思います。

二つ目は、『指導と評価の一体化』と言われるおおもとは、「目標に準拠した評価」ということになりまして。要は教えた内容があつて、そこにみんながたどり着いているかどうか。そこにもしたどり着いていないとすると、その授業時数が足りなかったとか、あるいは設定した目標が高過ぎたとか、そういうことで、授業の改善を図るという意味で、『指導と評価の一体化』ということが強調されていると思います。

そうした中で、『指導と評価の一体化』に対して、苦しんでいる先生がおられるという話でしたが、どこに苦しんでられるのかということが解らないと、解



補足していただいたほうが、次の話に進めるかなと考えました。

小村 純先生（高等学校）

私の記憶では、『指導と評価の一体化』という考え方が出てきた頃だったと思います。『指導と評価の一体化』がどういうものかを先生方が模索していた時期だったと記憶しています。

そうした時に、埼玉県教育委員会が東京大学と連携して、一つの考え方として、協調学習とこのがあるんだけど、これをたたき台として始めましょうというのが、最初私が指導主事をしていた頃だと認識しています。

ですので、当時からこれが絶対だという視点ではなくて、埼玉としては、一つの「主体的・対話的で深い学び」に向かう手法としての協調学習を、ぜひみんなで広めていきましよう、みんなで情報を共有して、授業をつくっていきましようという発想でスタートしたと認識しています。

二つ目ですが、『指導と評価の一体化』について、何に苦しん

でいるかという、大きく分けて二つの理由があると思います。

一つ目は、評価規準を作るということに対する抵抗感です。これが非常に大きかったです。指導主事をやっていたときに、「評価規準を作ってください」と各学校に伝えても、なかなか作れない学校があつたのが現状でした。二つ目は、体力ということに対して特化してきた先生たちに、「思考力・判断力を見てください」といつてもやり方がわからない。「思考・判断を見ろって言うけれども、どうやってやるんだよ」という質問をよく受けました。考え方と実践のギャップが苦しみの原因ではないかと思っています。

西川 光治先生（中学校）

中学校でも協調学習は紹介されていました。しかし、その始まりは高校からだったと記憶しています。

高校の受動的な授業を、能動的に変えていかなければということ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた一つの手法として、協調学習を東京大学とのコ

ラボレーションで埼玉県で始めたということだと思っています。

中学校でも、小学校でも実践をしてみましようと言われて、私も実際幾つかの授業を見たことがあります。この手法を単元を通してや、一単位時間全てで取り組もうと思うと、おそらく難しいだろうなと感じました。

実際には、高校より中学校のほうが、中学校より小学校のほうが、話し合い的な活動等がより実践されていて、協調学習という手法を取り入れなくても、「普段から取り組んでいますよ」という話は出ていたと記憶しています。

『指導と評価の一体化』については、私も「指導したことしか評価できない」と教わりましたし、またそれを若い先生方にも伝えていたと思います。

その授業で自分が指導したことでなければ、子供たちの身に付けた姿を評価できないということですね。また、評価というのは、教師が発する言葉全てが子供への評価だと思います。「その動き、いいね」と言っていることでも、教師の子供に對

する評価なんだと思います。

授業を見た際には、「先生、たくさん声かけてますね。その声かけも立派な評価なんですよ。」と伝えていました。

ある授業の研究協議会で先生方から「技能は評価しやすくて、態度は何で評価したらいいですか」とか、「知識・理解はどのように評価したらいいですか」などの質問が多く出されました。特に多かったのは、思考・判断の評価についてでした。授業のまとめとして書いた内容を評価すると、文章力のある子や、たくさん体育カードに書ける子の方が評価がよくなってしまふ。こうしたことが課題として挙げられていました。

河野 裕一先生（小学校）

協調学習については、主体的・対話的な学びを実現するための一つであると認識しています。大切なのは、発達の段階に合わせた子供たち自らの学びや、他者との関わりを保証していくことだと捉えています。

『指導と評価の一体化』については、小学校は、子供の実態が

置き去りになってしまふ実践を見ることがまれにあります。もちろん解説や評価資料には、ある程度の規準は示されていますが、子供たちにその枠だけを当てはめてしまふと、教師が指導していることと実態が伴わなくなる場合があります。そうなる

と指導と評価にずれが生じてしまふので、やはり実態を見極めた上で、何を指導し、何を評価するかを計画していく必要があると思います。そして、それを一単位時間に落とし込んでいけば、本時のねらいが何なのか、それに対する教師のアプローチはどうすればいいのかということが明確になっていくと思います。こうすることで、『指導と評価の一体化』が図れると考えます。

岡出理事長

今、それぞれの校種からお話しただいたわけですが、指導法に関しては教師がきちんと理解し、納得して進めないといけないと思います。

『指導と評価の一体化』についても、これをやることでどうい

うメリットがあるのかを自分で納得してないと、そのこと自体に関心を示せないということだと思います。

他方で、現行の学習指導要領は、いわゆる技能だけに特化しなさいと言っているわけではなくて、運動を好きになつてほしいとか思考力・判断力を高めてほしいとか、バランスよく子供の体育に関する学力を高めてほしいと言ってきたわけですね。子供たちが授業で成果を上げていくのに、どういうやり方がいいのかという点に関しては、皆さん手探りで、では例えば思考力・判断力を高めるのには、どういうやり方がいいのか、あ

るいは技能と絡めていくには、どういうやり方がよいのかという点に関しては、なかなかいいアイデアが出てこず、全体として考え方や指導方法が共有されていない。

そういう中で、改めて今回、「主体的・対話的で深い学び」というものが出されたわけです。これは何か変えていく可能性を感じられているかどうか。あるいは今までの実践の中で、これは具体的にいうと、割とぴったりにくるような授業、こんなものがありましたといったことで、思いつくところからご紹介いただければと思います。

河野 裕一先生（小学校）

その単元の学習過程全体を、どのようにデザインするかということが、とても大事だと思っています。一単位時間、一単位時間の授業ももちろん大事なんです。単元の前半、中盤、後半を見通して、どの段階で何を学習するのかということを、きちんと整理していく必要があると感じています。

例えば、単元前半にいわゆる

知識に関することを子供たちに保障してあげないと、単元中盤から後半にかけて子供たちに考えなさいと言っても何を考えていいのかわからないという状態になってしまいます。ですから、その単元前半で、動きのポイント等を押さえた上で、単元の中盤・後半で、対話的な学びや、課題解決的な学習を仕組んでいくと子供たちは、今自分がやっていることは、実はあの単元前半で学んだことが生きているんだという、いくつかの点が線につながることを実感できると思います。そうすると、子供たちから「ああ!」とか「あ、わかった!」という声が聞こえてきます。そういう瞬間が生まれることが、実はとても大事なんではないかと思っています。

西川 光治先生（中学校）

話がずれてしまうかもしれないんですけど、私の娘がスイミングに通っています。スイ

ミングには級があります。一定の項目をクリアできると、上の級に上がれる方式となっていています。娘も、習い始めの頃はトン拍子で、級が上がっていったのですが、あるときつまずいたんです。相当ショックだったみたいなんです。しかし、長い人生の中の一つの失敗の経験としては、すごくよかったと思っています。また今も、つまずいているんですけども、「次頑張ろう」と平気なんです。そうやって人間って強くなっていくのだらうなと感じました。そういうことを、授業でも実感させることができたらいいなと感じています。

また、私はずっとソフトテニスに関わって、週に一回、小学生のジュニアの指導をしています。

今年初めてラケットを握った子供たちと、四月から練習を重ねてきて、「来月試合だからね」ということで、この一カ月ぐらい、ルールや審判ができなくてはいけません。指導していいところが、ルールや審判についてはあまり興味を示さない。

しかし、試合に出るという目標があると、やらなくてはならないという意識になる。

つまり何か目標があつて、それに向かっていくときには、子供たちですごく頑張れるんですね。

こうしたことが授業に活かせたらいいなと、ここ何年か考えています。

中学校ですと、一つの単元が十数時間設定で、限られた時間の中で身に付けられる力は一人一人違うので、全体としての目標設定が難しいところもあると思います。しかし、子供たち同士のやり取りみたいなものが単元、授業の中で組み入れられたいなと考えています。

先ほど河野先生も単元全体のデザインと言っていました。そういう仕組みが学習過程だと思っています。学習過程を教師がきちんと見通しをもって作成することが大事かなと考えています。

小村 純先生（高等学校）

私は教員の割り切りが大切だと思います。初任の先生などの授業を見ていて思ったのは、先生



方ははじめなので、この時間内にあれもこれも指導しようとしている。だから、いっぱいいっぱいになってしまつて、結局中途で終わつてしまい、何をしたかわからなかったという印象をもつ先生が多かつたんです。

きょうの一時間のねらいは、知識と思考判断だけでいいのだと割り切ることが大事だと思います。

その授業を充実させるためにはどうすべきかというのを考えられればいいのだと思う次第です。

岡出理事長

お話を聞きながら、先ほど河野先生が言われたように知識を提供して、それをベースにして課題解決に向かうというのは現行の学習指導要領で言われている習得・活用・探究のプロセスのように思われます。

そうした実践を通して、今回言われている、主体的な学びや対話的な学び、深い学びということがしつくりするものか、全然違うもののような印象を受けているのかということについて

お聞きしたいと思います。

今までお話をいただいたことも踏まえて、この「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」ということを、皆さんがどのように理解されているのか、また実践に活かそうとするのかについてお話を聞きたいと思っています。

河野 裕一先生（小学校）

私は先ほど岡出先生のおっしゃった「しつくりくる方」かなと思つています。「主体的・対話的で深い学び」、例えば主体的な学びという中には、子供たちが見通しをもつことや、自分の学習を振り返ることも含まれていると捉えています。習得・活用・探究の過程には、当然課題の把握と振り返り、そしてその振り返りから次の時間の課題の設定があり、それらが一本の線となつてつながっていくことで、質の高い学びが保障されてくると思ひますので、そういう意味でしつくりきます。また、習得・活用・探究の過程が充実するに、当然子供たちの関わり合いは欠かせません。そして結果的に技能が高まる、さらには運動

が好きになるという姿が期待できます。そういった意味でこれまでの学習プロセスと、「主体的・対話的で深い学び」というものは、私の中でしつくりくるなど、今思つています。

西川 光治先生（中学校）

運動が苦手な子供とか、体育が嫌いな子供は、おそらく自分ができないから苦手だったり、嫌いだったりするんだと思います。そういう子供にとつては、基礎的な動きをきちんと身に付けていかなければならぬ、好きになれないと思うんですね。

先ほど河野先生が言つてらした、単元の前半で習得すること、保障することが、私も大切だと感じています。

そういった意味でも、習得・活用・探究はとても大事だと思いますし、ある程度前半に習得の時間を保障することで、運動に苦手意識がある生徒も、少しでも主体的に運動に取り組めるのではないかと思います。

吉原理事

習得・活用・探究についてですが、「習得」というと教師主導の一斉的な授業のイメージが強くあると思います。確かに子供たちが基礎・基本を確実に定着しないと、運動の楽しさも味わえないし、運動の特性に触れるおもしろさも味わうことができないであろうことも想定できます。教師が教えるべきことは教える。その内容を精選し、生徒同士で取り組み、仲間と協力しながら習得をしていく場面も設定できるのではないかと思います。

実際に授業を行つていた際には、子供たちに評価規準の具体例を解りやすく提示し、子供同士で自分たちのできないことができるようにする学びを展開しました。仲間との関わり、会話を大切にしながら習得を図ることで「できた」「わかった」が実感できていたと思います。

基礎基本を身に付けることで、それを活かした深まり、高まりのある学びが実践できると思ひます。そうした学びを行つていくためには、進んで学習に

取り組むこと、仲間と協働しながら課題解決を図ることが大切であると思つています。習得・活用・探究と、「主体的・対話的で深い学び」は、関係性の高いものであると考えています。

小村 純先生（高等学校）

岡出先生のコメントの中に「体育の教科の特性を活かすことが必要だ」ということがありました。考えたことを試して、その結果をすぐにフィードバックして次の取組につなげることが体育の特性だということが印象に残つています。

体育の授業で習得・活用・探究が実践されてきてはいますが、さらに授業にどう活かしていくかが、これからは大事なのかなと感じております。

そういった意味でも、その手段として「主体的・対話的で深い学び」というのが生きてくるのではないかなと考えています。

岡出理事長

この「主体的・対話的で深い学び」の、例えば主体的な学びだと「学習を振り返つて課題を

修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程」とありますが、「何でこんなことをやらなくてはいけないんですか」と思う子は当然いるわけですね。

だから、対話的な学びの過程と言われるものも、「自己の思考を深めていく学びの過程」と言われて、「それってどういうことかよくわからないし、何でそんなことをやらないといけないの」という子供も当然いると思うんですね。

深い学びも、「課題発見して、解決に向けて試行錯誤を重ねながら思考を深め、よりよく解決する」と。「そんなことやらなくても、何も問題ないんですけれども」と、思っている子供たちもいると思うんですよ。

例えば、今言われた習得・活用・探究でいえば、先生が前面に出て、ゲームのルールの説明をする、ルールがわからないと君たちゲームができないよという話になるので、先生がゲームのルールを説明して、「はい、じゃ、やってみよう」と言ったら、「やっぱりよくわからないんですけれども」という話になっ

て、「何で君たちわからないんだよ」と先生は憤る。

知識は確かに提供されたけれども、それを使う場面が保障されなくて一気に理解しろという話になってしまっているので、何しいいかよくわからなくなってしまうと。こういう現象は、多分授業でよく起こるのだと思います。

そのため、このような状況に陥ることを避け、主体的な学びの過程を実現したり、対話的な過程を実現したりするためには、それなりに仕組まないとうまくいかないのではないかなという気がするんです。

主体的な学びを実現しようとするために、先生方としては、どんな仕掛けが必要だと今感じられているのか。対話的な学びを実現しようとする、どんな授業のしつらえが必要なのか。それから深い学びというのはどんなしつらえが必要なのか。今までの実践などを思い起こしていただいて、そういえばこんな例があったよねというのがあれば、ご紹介いただけるとありがたいと思います。

河野 裕一先生（小学校）

小学校で、主体的な学びという言葉を受けたときに考えるのは、子供たち自身が運動をやってみたいと思えるような、いわゆる魅力的な教材づくりがとても大事だろうと思っています。

事例を挙げるとすると、多様な動きをつくる運動で、「〇〇探検に行こう」と単元の中にス

トリーをつくり、毎時間の課題をクリアすることで、探検が進んでいくという授業を行いました。教師が子供の関心を見取りながら意図的・計画的に課題を設定することで、子供たちはきょうの課題をクリアするために、意欲的に学ぶ姿が随所に見

られました。

また、跳び箱運動では、自分の動きのできばえを客観的に把握するため、タブレットを使って可視化した自分の動きに、線を引いておいたOHPシートを当てておいて、自分の足が跳び箱の台上からどれくらい上がった

そうすると、「台上から今何本目まで上がったね」「さっきより上手になったね」などの具体的な振り返りができるようになり、次の課題が明確になる子供が多く見られました。

ゲーム・ボール運動領域では、子供たちの一番の欲求はゲームに勝つことですので、その欲求を駆り立てるためにも、毎時間の授業のねらいを、「〇〇をしてゲームに勝とう」と設定しました。〇〇には技能に関すること、思考・判断に関すること、態度に関することが入ります。本時のねらいの達成が、結果的にチームの勝利につながることで、ねらいを意識した学習が展開できました。

西川 光治先生（中学校）

技能が身に付くには個人差があると思うので、時間的余裕を教師側が設定してあげることがとても大切だと考えます。

しかし、限られた時間の中で身に付けさせてあげることは、とても大変で、難しいことだと思います。

私は、平成二十年に岡出先生と出会い、体育授業について学び、考え方が大きく変わったと思います。大切なのは教材づくりと見通しをもった学習過程だということをお話していただきました。

先程吉原先生が教師主導とおっしゃってました。確かに教師主導で行うと、それほど時間もかからずに授業を進めることができると思います。しかし、子供の思考・判断が反映されずに、つまらない授業になってしまいうこともあるかもしれません。見通しをもったプログラムを作成し、基礎基本を身に付ける時間が保障され、子供たち自身が「きょうもこれをやると基礎基本が身に付くんだな」「前回より上手にできるかな」と自主的に取



り組み、また自分に合った練習

を考えて行ってゲームにつなげていくことができたら、今までと違った主体的な授業になっていくのかなと思います。

そういった教材づくりや学習過程の作成が、小学校の先生に比べて、中学校の先生はあまり得意ではなかったと感じています。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査の結果を見ても、子供たちは仲間同士で教え合うと「楽しい授業だった」とか「技能が伸びた」と、結果として出ているのです。そうした結果を活かさない手はないと思っています。対話的な部分とか思考・判断させるような場面というのを意図的に適切に作ってあげると、子供たちはうれしいし、子供たち同士で教え合うことで、実は伸びにつながっているのです。教師が主導で教えるよりも、子供たち同士の学び合いの方が伸びたというときがあるのではないかなと思います。

そのような時間を、学習過程の中に位置付ける仕組みが大切

と考えます。

ある中学校の走り幅跳びの授業を二時間続けて見たことがあります。

一つは、繰り返し砂場に向かつて何回も跳ばせて、活動量は十分にあると思うんです。そして最後に教師が一言。「きょうの記録を計ります」と言っ

て計測して終わる授業でした。もう一つは、協調学習を取り入れた授業でした。確かに跳ぶ回数を前の授業と比較すると少なかったかもしれませんが、子供たち同士で、「助走ってこうしたらいいんじゃない」とか、「跳んでいるときってどういう空間動作しているの」とか、「着地はどうする」というのを話し合っている姿は、子供たちに笑顔があり、楽しそうでした。教師が主導で指示等をしている場面はほとんどないわけですが、まさに「授業だな」と感じた授業でした。

その二つの授業、どちらが子供たちの授業として良かったのだろうかということ、とても考えさせられました。子供たち同士の学び合いがある方が授業

は楽しいし、自分の言葉で教

合うので、自分自身の理解にもつながり、そして、自分も伸びて仲間も伸びることができたら、言うことはないと思うんですね。そのような授業が増えていくといいのかなと感じたことがありました。

小村 純先生（高等学校）

高校では、やはり部活動との兼ね合いが強いです。

これまでも各部活動に所属する生徒が、リーダーシップをとって教える場をつくる授業が行われてきた例があります。

その生徒が周囲に教えることによって、「主体的な学び」が実践されていきました。また、様々な生徒たちが「教え合う授業」Ⅱ「対話的な学び」も同時に展開されておりました。

このような授業の実践が、高校の体育授業を構成してきたところもあり、その積み重ねが「深い学び」につながってきていると考えます。

このような授業実践を、大切に継承していくことも必要だと思います。

岡出理事長

主体的な学びとか対話的な学びとか深い学びって、こんな事例があるよねと思われる。

高校でも部活動に関わって、技能の高い子が他の生徒に教えるという場面、こうしたことは、中学校でもあると思います。小学校でも先ほどお話があったように、あるスポーツに関してはものすごく優れた技能を有する子供がいるわけです。

例えばその子供が、授業で人に教えるということをやると、その子たちの学びを阻害するのではないか、その子たちに不利ではないですか、といったことは、以前から繰り返し指摘されてきたと思うんです。その子たちが、いわゆる技能の低い子に教えて、技能の低い子が伸びたらしいよね。では、うまい子

たちは、何のメリットがあるんですかと、それは、多分算数などの授業でも同じように言われてきたことだと思うんです。でも、自分が教える立場になって、自分で咀嚼しながら、こういうことを伝えればいいのかを考えながら、次のステップ

に進んでいる子供と、言われたことだけをそのままやっている子供では、差は結構大きいと思うんです。

実際に人に教えるという立場になった途端に、相手の人に「わからない」と、そういう顔をされたときには、自分はわかっているつもりなのに相手の人にわかってもらえていないと、何がわからないかがわからないという状態になります。

そうすると、自分自身の理解度をもう一度チェックし直すプロセスがそこで発生してくる。これは、他者との対話に、そのまま直結するような現象だと思

うんです。自分自身が理解していると思っていたのに、実は自分自身の理解度はそれほど深くなかったなと気づかされてしまう場面になってしまっているんですね。そうした経験から、次に人に教えるときには、これでうまくいくとかいかないという、試行錯誤を繰り返していくことになると思っています。こうしたことが、深い学びとか主体的な学びに、つながっていくプロセスだ



と思うんですね。

逆にそういう経験をした子が、次に自分の動きを変えているときに、それをそのまま活かすことができるようになってくるので、その子の力になっていくと思うんですよ。

そういう意味では、「主体的・対話的で深い学び」という言われているものの中には、自覚されていないものもあると思います。自覚してないと何がまずいかというと、それが意図的に行われていないということだと思えます。結果的に、できてしまっているかもしれないけれども、子供たちが意図的にそういうプロセスを経ているわけではない。そうした設定を教員が自覚しないまま進めると、偶然うまくいくこともあるかもしれないけど、期待している成果がなかなか得られない状況になるような気がするんです。

自分たちの単元計画だとか、指導と評価の計画を見直して、「これではこの結果は出てこないよね」とか、「これは割とうまくいっていたから次回も使えるぞ」とか、そういう情報が共有され

ていくと、授業の再現性という面で外れは少なくなっていくと思うんです。

そういうことも踏まえて、小学校と中学校と高校は、単元の時数もかなり違う。それから中学校は三年生からは選択が入ってくる。高校の場合は、選択がベースになっていて、学びの履歴の全然違う子たちがいて当たり前という状態ですよね。

運動技能に関しては習得状況が大きく異なるのは当然のことになるわけで、なおかつその差が、小中学校よりも広がっているところから授業をやるのが高校になるので、その状況で、「主体的・対話的で深い学び」と言われるものを、どういう形で実現していくことができるのかを考えないといけない。

中学校だと一、二年生と三年生では、必修から選択に変わっていくので、授業のスタイルは、三年間を見越して考えていく必要がある。

小学校では一つの単元の授業時数が短いため、どの単元でも同じように進めようとする結構つらい。そうすると、年間指

導計画立案の段階で、重点化する単元などについて、学校の中で合意できるかどうかで、子供たちの習得状況や興味関心が大分変わるような気がするんですよ。

こういうのは、一つのアイデアだと思うんです。要領が変わるということは、新しいことがある意味トライアルできる機会でもあるわけです。

ちよつと話を広がってしまいました。これは三つ目の課題にかかわってくるようなことだと思います。

小村 純先生（高等学校）

不易と流行がありますけれども、体育だけでなくて不易としてはやはり「生きる力」というのはすごく大事だと思います。知・徳・体っていうものを体育の授業から培って、生きる力を育むということが求められているのかなと思います。

普遍的な理念というんですかね。そういったものが、体育だけではなくですけれども、新しい指導、新しい教育にも必要だとは思っています。

流行としては、「主体的・対話的で深い学び」という授業を、いかに創造していくかというところだと思います。私もある本で読んだのですが、これからはいかに教え込まずに考えさせる授業を創っていくことが大事なのかということ、極端なことでは、先生の要らない授業を創っていくことが必要なんだと書いてあったのです。

私は、なるほどなと腑に落ちたところがあったんですけども、教員が教える立場で教えないという視点もすごく大事なところだと思います。なので、そのために授業をしつかりと計画していく、習得・活用・探究をしつかりデザインしていくという準備が求められているのかなと思います。

継承すべきものと新しいものを取り入れるところというのをしつかりと融合させながら、取り組んでいきたいと考えています。

西川 光治先生（中学校）

最初に自分が話したことです、以前は運動量が大切にされ

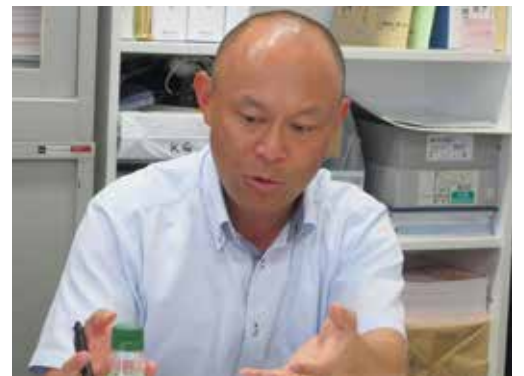
とか、体力向上が重視されたとか、学習規律をきちんとさせるという点に重きが置かれていたということが良くないように聞こえてしまったかもしれないですが、子供たちがきびきびと動く姿を見ていると、それはとても気持ちがよくて、効率よく動くということは、友達との和を乱してはいけないという子供たちの意識の向上にもつながり、

規律よく動くことによって時間が捻出できれば、その分楽しいゲームがたくさんできたりということがあるので、とても大事ななことだと思います。

その中で、結果として体力向上、もちろん技能も身に付いていくといいと思います。それも普遍的に変わらない部分なのかなと思っています。

ただ、そこに目が行き過ぎてしまうからよくないのだろうと思います。ずっと話に出ている、「バランス」なのですよ。現行の学習指導要領でも評価の際の四観点をバランスよく、そして

今回も三つの資質・能力を確実に身に付けさせるということで、バランスが重視されています。



そのバランスをうまく組み込み、プログラムとして一つの単元を組み立てていくことが、教師の仕事であり、それを意図的に工夫・改善しながら、三つの資質・能力を身に付けさせていくことが、体育授業に求められているのだと思います。

そのためにどうしていったらいいのかということ、これからの十年間で実践しながら、我々教師が模索してより良いものを作り、またその次の十年後につなげていく、教育財産として残していけるものを作っていきたいと思っています。

河野 裕一先生（小学校）

先ほどの岡出先生からの学習

指導要領が変わるタイミングで何を財産として残し、何にチャレンジしていくかというお話は、自分自身これから考えていかなくてはいけないという示唆を与えていただいたと感じています。

少し話がそれしまうかもしれませんが、本校ではこれまで、体育における思考力・判断力の育成に重点を置いて研究を進めてきました。ですから、研究授業等でも、子供たちが思考をしている場面を取り上げる機会が非常に多かったです。そうすると、参会者の先生から、「運動量はどう確保するんですか」という質問が必ず出てきました。そこに対しては「単元を通して、あるいは年間を通して軽重をつけて学習している」と回答していました。

それと同じで、先ほどの学習過程をデザインすることにつながるとは思いますが、年間を通して「主体的・対話的で深い学び」をどの単元でも全部やろうとすると必ず無理が出てきてしまうと思っています。

ですから、学校として明確な

意図をもった単元配列などのカリキュラム・マネジメントが重要だと感じますし、その際に子供の視点に立つて考えていかねければならないと思っています。

例えば、タグラグビーの学習で、三角パスは有効ですが、最初から「三角パスをやるよ」と言っても、子供たちはそこに何必要感を感じません。単元の途中で、「一人でボールを持って行っても先に進めない。どうしよう。」となったときに初めて三角パスを提示することで、子供にとって必要な学習内容となるわけです。ですのでこれまで以上に子供の実態を考えた学習内容を配置していくことが大事なんだろうと思っていますし、その整理が、この移行期間に必要なことだと考えています。

吉原理事

ちよつと視点が違うかもしれないですけど、子供たちが社会に出て活躍する二十年後の社会はどうなっているのかを考えないといけないのではないかと思います。単に知識をもっているとか、知識を再生で

きるとか、技能ができるとかだけでは、多分役立たなくなる時代になっていく。

そうしたときに、必要になるのが、自分で課題を見付けて解決していく力とか、自分だけでは解決できないから、仲間と協議をしながら新たな視点や、深い考え方を見付けていくためのコミュニケーション能力が必要になると思うわけです。

また、いつそう機械化、自動化が進むことを考えると、規則性のあることは機械がやる。そうなる人は何をやるのかといったときに、やはり創造性がないといけないのだろうとなるわけです。

これまでも、課題解決能力とか言語活動に代表されるようなコミュニケーション能力については、ずっと言われてきています。

それを、体育の中でも、先生方は創意工夫しながら実践してきているんだと思うんです。ただ、どうしても体育というのは技能があるので、技能に意識が行きがちになる。でも、体育だからこそ、私は仲間とのかかわ

りとか豊かな人間性とかといったものも、身に付けていけることも大事な教科ではないかなというところは、強く自負していたところがあるんですね。

あえて今回「主体的・対話的で深い学び」という言葉が出てきた背景には、これからの時代を生きる子どもたちに身に付けるべき力について、先生たちが、少し視点を変えて捉え直すことも必要ではないんですかねというのを、改めて言われたかなという感覚はあります。

そして、主体的な学びのためには、先ほど西川先生もおっしゃったように、まず目標、めあてを明確に示す。そして、わ

かりやすい技能のポイント、評価規準の具体例を提示してあげること必要だし、基本的にはできないことをできるようにしていくんだよねという、そういう体育の根本的な学びの考え方を、子供と先生が共有していくということが大切と考えます。

対話的は、子供同士で学び合ったり教え合ったりする場面を設定することが、子供たちには有効であると思います。二人

組で取り組みれば、二回に一回は自分が実践できるわけで、先生が説明しているより、運動する時間は確保できるし、楽しければ積極的に動いて、効果が上がると思うんですね。

基本的には自分の力を伸ばす、できないことをできるようにしていく、課題をもって課題を解決していく学びを繰り返していくことこそ、体育における深い学びになってくるのかなと思います。そのようなことが「主体的・対話的で深い学び」という言葉から感じていることです。

岡出理事長

大きな三つの柱についてお話を伺ってきました。

吉原先生が言われたように、安倍首相は、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて要領を変えらと言っていたわけです。それは二〇三〇年を想定して考えるということでした。

しかし、その先のことが、実は問題で、二〇四五年には、AIが人間を追い越していく年に

なる、もっと早くなるかもしれないと言われています。そこで、今の日本の子供たちの課題は何なのかというと、国際的な学力テストの成績は高い、しかし、

最初から問題に取り組まない、未回答の子供割合が高いことなんです。だから、主体的に課題に取り組む以前に、「どうせできないから」「私、わからないから」という子供たちが日本の中には多いと言われているわけですね。

そうすると、将来大人になったときに、最初から何も挑戦しない、「どうせできないから」という子供たちになってしまう。

そういう子供たちが、「いや、自分もこういうことができるんじゃないか」「こういう可能性があるんじゃないか」と、今はできないけれども、新しいことにトライアルするということが自体に意味があると思えるようにしてあげることが日本の将来を考えていった時に大切になると言われるわけです。

だから、「主体的・対話的で深い学び」というプロセスを保障していくことによって、これか

らの社会を生き抜く子供たちに必要な資質・能力を保障していきけるのではないかな言われています。

そういう中で、自分たちはどう生きていくのかということの本当に考えないといけないくて、それがあと数年のところで、シフトしていく国といけない国で、経済規模が全然変わってしまうと言われていて、そこに対する危機感のほうが、多分大きいんですよ。

できない自分を、ちゃんとポジティブに認めてあげるとか、失敗しても自分が消えるわけではなく、また次のステップに行ける。やることに意味があるんだと思えることが大切なんです。

また仲間のことを知る、認めるといったことも大事になると思います。そういうスキルは、非認知系のスキルと言われている類いだと思えますけれども、こうしたスキルを身に付けた子供たちというのは、いろんな問題が発生したときにも解決能力を発揮できる子供になると思いますよ。

何か課題の解決を図る場面

で、「これいいと思うんだけど」と友達に提案した際、「そんなものに立たないよ」って言われてへこんでしまい、もうそれ以降、提案しなくなる子。自分のアイデアがものすごくいいのに、主張しないままになってしまふ子が増えてくることのほうが、多分問題だと思います。

そのためには、授業時間の中で、自分たちが考えて、成功できるような条件を保障してあげることが考えていけないといけないわけです。

先ほどの西川先生の話でしつと自主性・主体性のことがありました。これについて、両方が同時に成り立たないという考え方がるように思います。

しかし、ベルギーの研究者が行ったおもしろい事例あります。中学校の子供たちと、スポーツのエリートスクール、同じ中学生の子供たちを対象に、中学校の子供たちには体育の授業で、先生はどういう指導をしているとか、「君たちは自主性、高まったと思う？」などのアンケート調査を実施した。その際の、生徒の回答と先生の行動をクロス

させた結果です。エリートスクールの子供たちは、種目がたくさんあるので、「いろんなコーチたちが君たちにどういう指導をしているの？」という問いの回答と、「君たち、自主性、高まっている？」と指導者の行動に対する回答をクロスしてみると、全く同じ傾向みられたというのです。そこでおもしろいのは、「しつてもしつかりしているし、自主性もしつかり伸ばしている」というパターンの人と、「しつてもグダグダ、自主性も何も伸ばしてない」というパターンの人がいることが明らかになりました。子供たちが自信をもつて伸びていっているのは、しつても自主性も両方伸ばすという指導者たちだったわけです。

そうすると、バランスの問題にもなるんですけども、そうしたことをちゃんと踏まえて、指導の方法をもう一回考えてみないといけない。

逆に言えば、しつても不十分、いつもネガティブなワードを発する指導者に対する改善策も示されていて、そこにはネガティブワードを使わないで授業に臨む

むことができるかどうか試したらどうですかといったことが書かれています。

先生方がそのように追い込まれたときに、改善策の行動がとれるかどうかによつて、子供たちも変わっていくかもしれないし、先生も変わっていくかもしれないと思います。

そういう意味でも、皆さんが授業をやられている中で、「これが常識」と思っているのと全然違うことをやっているのに、きちんと成果を出している方たちがいて、その人たちの実践も、みんなで共有していくと、実は意外に近いところに見本があつて、学校の中で授業を変えていきやすくなっていくかもしれない。それをより多くの人が共有していくことができれば、点が面になって広がっていくことが期待できるのかなと思います。

西川 光治先生（中学校）

今のベルギーの事例はおもしろいなと思いました。しつけることも大事だし、主体性も伸ばしてあげること、子供の本当の力を付けられるのだ。なる



ほどなと思いました。今後も勉強していききたいと思います。

小村 純先生（高等学校）

非常に勉強になりました。ただ一つ思ったのは、これを広めていく場というの必要なのかなというのを強く感じました。今後考えていかなければならないと思います。

河野 裕一先生（小学校）

岡出先生のお話を伺いながら、体育を学ぶことで、何ができるようになるのか、何を保障するのかということを、もっと広い視野で考えていかなければならないと強く感じました。これからは勉強していききたいと思っています。

岡出理事長

これで座談会を終わらせていただきます。先生方、貴重なお話をありがとうございました。

吉原理事

長時間にわたり、熱心にお話し合いいただきました。ありがとうございます。大変充実しました。

た座談会になったなと思っておられます。

それでは、菅原事務局次長より終わりのご挨拶をさせていただきます。

菅原事務局次長

長時間にわたり、本当にありがとうございました。

お話を聞きながら、埼玉の協調学習は意味深い、特色のあるものだと思えました。

そのあたりの定義を含めながら、国立教育政策研究所では資質・能力について初めて本を出しました。その中で、英語で紹介しながら、協調と協働の違いなどについて説明があったと思います。今回はそういった意味でもいい勉強をさせていただきました。

また、私は小学校にいたものですから、河野先生のお話にあったデザインということや学習過程などといった内容について考えさせられました。

来年、埼玉で全国学校体育研究発表大会が開催されることを、とても楽しみにしています。頑張ってください。

一同

ありがとうございました。

全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第57回全国学校体育研究大会（2018年度）開催地	佐賀県	2018年11月15・16日
第58回全国学校体育研究大会（2019年度）開催地	埼玉県	2019年10月31日・11月1日
第59回全国学校体育研究大会（2020年度）開催地	福井県	2020年11月12・13日
第60回全国学校体育研究大会（2021年度）開催地	愛媛県	
第61回全国学校体育研究大会（2022年度）開催地	滋賀県	
第62回全国学校体育研究大会（2023年度）開催地	山形県	
第63回全国学校体育研究大会（2024年度）開催地	山口県	
第64回全国学校体育研究大会（2025年度）開催地	北海道	

第五十六回 全国学校体育研究大会 和歌山大会を終えて

和歌山大会実行委員会 会長 西川 彰彦



第五十六回全国学校体育研究

大会和歌山大会を平成二十九年十一月九日・十日の両日にわたって和歌山県内の各会場において開催いたしました。初日・二日目とも天候に恵まれ、無事に実施・運営することができました。

初日の和歌山県民文化会館での全体会では、主催者並びに来賓の方々から、今回の大会への期待のお言葉を頂きました。

その後、これまでの学校体育の功績に対し、最優秀校・優良校・功労者の表彰及び、今年度から新たに設けられた体育授業優秀教員の表彰がなされました。表彰の栄に浴された学校・先生方には、心より敬意を表し

ます。

また、全体会では、研究編集部長による「基調報告」、スポーツ庁政策課教科調査官高田彬成氏より「学習指導要領改訂とこれからの体育・保健体育」と題しての「解説」、筑波大学菊幸一教授のコーディネートにより、「新幼稚園教育要領・学習指導要領を踏まえた授業づくりに向けて」というテーマで全国から集まっていたいただいた五名の先生方による「シンポジウム」、そして帝京大学ラグビー部監督の岩出雅之氏による「常に進化を目指して」学生選手の未来に繋がる指導のあり方」と題した特別講演が行われました。

二日目の分科会は、和歌山県内の一二会場（幼稚園一会場・小学校四会場・中学校四会場・高等学校二会場・特別支援学校一会場）に分かれ、「公開保育・授業」、そして研究協議を行いました。

いずれの会場においても、実

りある研究活動が行われたことを確信するとともに、参加された皆様方から、貴重なご意見・ご指導を頂きましたことに、心から感謝申し上げます。

今回の和歌山大会では、現行の学習指導要領を踏まえつつも、新学習指導要領への展望も持った大会と考え、大会主題を『主体的・対話的で深い学びを通して 自ら考え工夫していく力を身に付ける体育・保健体育学習』と自らが進んで運動（遊び）に取り組み、仲間とともに高め合う姿を求めて」と設定しました。そして、その主題を達成するために、

- 「主体的に運動や遊びに向き合う子供たちの育成に向けた授業づくり」
- 「お互いに高め合うことのできる学習過程や学習形態の在り方の研究」
- 「指導と評価が一体となった授業づくり」

の三点を柱として位置付け、研

究を進めました。

当日は、和歌山県が各校種で取り組んできた、発達の段階に照らして工夫した教具・用具、学習の場や、生徒一人一人が学び合い高め合う関係づくり、そしてまた「自分ではできる」、「自分は理解している」のみではなく、「自分ができることを相手に説明する」、「理解していることとやできることを活用し、新たな課題を解決する」、そのような子供たちの姿を、さらには、学習過程・学習形態の在り方や指導と評価が一体となった授業の在り方について、発表するところができたのではないかと考えております。

当県は、一昨年の「インターハイ」、「紀の国わかやま国体」という大イベントから今回の全国学校体育研究大会和歌山大会と、この三年間、体育の行事から研究まで、非常に充実した日々を過ごすことができました。本県の保健体育関係者にとり、

他に比類することのできない貴重な時間でありましたが、特にこの二年間については、体育・保健体育関係者が得たものは、言葉では言い尽くせません。

当県ではもちろん、各校種において、日々、よりよい授業・保育づくりをめざして、研究・実践に取り組んできました。さらに、本大会を機に、幼・小・中・高・特別支援学校のそれぞれの研究組織の充実、大学等との連携を通しての学校体育の研究体制の整備、また、学習指導要領のより深い理解とお互いに研修・研鑽し合う中での学校体育の研究がいつそう充実していく過程が、私たちにあって、本当に素晴らしい時間となりました。

大会に参加いただきました全国の学校体育関係者の皆様、並びに大会を成功に導いてくださった皆様に感謝を申し上げます。大会の報告とさせていただきます。

第五十七回 全国学校体育研究大会 佐賀大会開催にあたって

佐賀大会実行委員会 会長 中島 慎一



第五十七回全国学校体育研究大会佐賀大会の開催にあたりご挨拶を申し上げます。

佐賀県では平成二十六年度に佐賀大会開催が決定して以来、これまで、佐賀県の幼児、児童生徒が生き生きと活動する姿を全国の先生方に見ていただいたという思いで大会の準備を進めて参りました。

本県は、これまでも佐賀県保健体育研究大会という県独自で小中高のそれぞれの保健体育関係の指導者が集い、研究発表大会を開催してきました。この大会の歴史は六十五回を数えるまでになっており、県内の保健体育学習の振興・発展に寄与して参りました。

さらに九州地区でも九州各県が集う研究大会を開催し、その回数は五十七回の歴史を重ねています。

この度の本大会に向けては、これまでの研究や実践を積み重ねながら、幼稚園やこども園の取り組みに加え、幼児及び児童生徒が生涯にわたり健全な身体を育み、運動やスポーツに親しむ姿を目指して参りました。

特に、学習指導要領の改訂の時期と重なることで、新しい内容を見据え、主題を「生涯にわたり、仲間とともに主体的に運動やスポーツに親しむ資質・能力を育む保健体育学習」と設定し、実践と研究を重ねて参りました。また評価については、四観点から三観点に変更されることにもない「佐賀モデル」として基本的な考え方をご呈示し、皆様の御意見や御指導をいただければと考えております。

大会初日となる十一月十五日（木）の全体会は「佐賀市文化

会館」で行います。

午前は「開会式」を皮切りに「表彰式」「基調報告」を行います。午後からは、「解説」「シンポジウム」「特別講演」を行います。

「解説」では、スポーツ庁政策課教科調査官高橋修一氏より「新学習指導要領における体育科、保健体育科の在り方」について解説をしていただきます。

さらに「シンポジウム」では、コーディネーターの石川泰成氏（埼玉大学）と全国から集まっていたいただいた五名のシンポジストの先生方に「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」というテーマで討論をしていただきます。

そして全体会の最後を飾る「特別講演」では、福島大学教授の川本和久氏に「伸びる子を育てるスポーツ指導の見方・考え方」と題してご講演をいただきます。これまで数多くのトップ選手を育て上げられた陸上競

技の指導や数々のご経験を通して得られた知見をもとに、これからの体育・スポーツの取り組みにつながるご示唆をいただけるものと期待しております。

翌十一月十六日（金）には、幼稚園二園、小学校四校、中学校三校、高等学校二校、特別支援学校一校のあわせて十二校園で「公開保育・授業」「研究発表・研究協議」を行います。

各校園では、実行委員会と連携して、それぞれの研究主題を設定し、授業づくりを行ってききました。

研究の重点としては、今持っている力で運動やスポーツに親しむことからスタートし「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業はどうあるべきかについて、授業デザイン、指導と評価の一体化、深い学びへの誘い、学習環境の整備などを追究してきました。

また、単元計画や評価計画を作成し、内容を明確にした年間

指導計画や生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成するポートフォリオ評価の在り方にも取り組んできました。

今回の大会では、大会主題の具現化に向けた各校園の取り組みを多くの皆様方にご参観いただき、率直な御意見や御指導を期待しております。

最後になりましたが、本大会を開催する機会を得たことで、本県の幼、小、中、高、特別支援学校の各校種において、それぞれの連携と研究組織が充実し、学校体育の研究体制の構築を図ることができました。

このことは、本県の幼児、児童生徒の心身の健全な発育に今後とも寄与できるものと感謝しております。

大会当日には、全国の学校体育関係者の皆様に多数ご来県の上、保育や保健体育学習の在り方をご覧いただき、御意見や御指導を賜りますようお願い申し上げます。

第57回全国学校体育研究大会 佐賀大会

分科会授業の見どころ

第2分科会	龍谷こども園
<公開授業領域> 運動遊び	
<分科会研究主題> 楽しみに思うところを育む運動遊び ～思わずやってみたくなる環境構成の工夫～	
<保育のみどころ> 幼児自身が主体的に遊びに夢中になって取り組めるような環境の中で、身近にいる保育教諭や友だち、異年齢の友だちと一緒に運動遊びに親しむ姿をご覧ください。	
<保育者の思い・意気込み> 思わずやってみたくなる環境の中で、「遊びたい」「動きたい」気持ちが生まれ、さらに「もっとしたい」気持ちが高まり、そして「できた!嬉しい」「できない……悔しい」といった様々な体験をする中で、「こうしたらどうなるだろう?」と考え、遊びを工夫し広げていく姿に繋がると考えています。幼児期には、個々に異なる発達段階があることを踏まえ、一人ひとりに応じた援助と誰もが主体的に楽しむことのできる、「心が動く」保育を目指します。	
<指導助言者> 十文字学園女子大学 鈴木 康弘	

第1分科会	錦華幼稚園
<公開保育領域> 運動遊び	
<分科会研究主題> 『おもしろそう! やってみたい! ～子どもの心を動かす環境の工夫から生まれる豊かな遊びと仲間意識』	
<保育の見どころ> 朝の自由遊びから始まる幼稚園の生活。チャレンジや試行錯誤をする時間を保障された子どもたちが、安心して伸び伸びと遊び込む姿をご覧ください。	
<保育者の思い・意気込み> 「おもしろそう!」、「やってみたい!」という心の動き（子どもの内面から立ち上がる運動遊びへの意欲）をかき立てる身近な環境の工夫とは、いわば先生たちから子どもたちへの「挑戦状」。日々子どもたちの遊びの様子を丁寧に見つめて、常に子どもたちが主体的な意欲のもとに体を動かして遊ぼうとする環境の工夫を重ねて、一人でも楽しい運動遊びが、友だちと遊ぶともっと楽しいことに気づくような保育を目指します。	
<指導助言者> 東京学芸大学 吉田 伊津美	

第4分科会	佐賀市立循誘小学校
<公開授業領域> ①器械運動（跳び箱運動） ②器械運動（マット運動）	
<分科会研究主題> 運動の楽しさに触れ、主体的・対話的に運動やスポーツに親しむ児童の育成 ～器械運動の学習を通して～	
<授業の見どころ> 仲間とのかかわりを大切に、児童一人ひとりが「できた」喜びを味わえるような器械運動の授業をデザインします。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：子供一人ひとりが自分に合った課題を設定します。練習の場や練習方法を選択し、仲間とかかわりながら活動する中で、「できた」喜びを味わえるような授業を目指していきたいと考えています。 公開②：できる技を増やしたい、上手にしたいという児童の思いを大切に、児童自らに自分に合った課題を持たせます。学習資料を用いたり、仲間と関わったりする中で、技のポイントを見つけ、場の工夫等をしながら進んで課題を解決していく姿をご覧ください。	
<指導助言者> 西九州大学 福本 敏雄	

第3分科会	佐賀市立勸興小学校
<公開授業領域> ①体づくり運動（多様な動きをつくる運動） ②体づくり運動（体の動きを高める運動）	
<分科会研究主題> 主体的・対話的に運動やスポーツを楽しもうとする児童の育成 ～「できる」「わかる」「かかわる」を保障した授業づくりを通して～	
<授業の見どころ> 主体的・対話的な学びを通して、児童が運動を楽しみながら動きの質を高めることができる体育の授業をデザインしたいと考えます。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：児童自ら動きを工夫し、友達同士かかわり合いながら、楽しく多様な動きを身に付けようとする児童の姿をご覧ください。 公開②：自分自身の体力に対する課題に目を向けさせ、自己の課題に応じた運動をすることで、体の動きを高めていこうとする児童の姿をご覧ください。	
<指導助言者> 安田女子大学 徳永 隆治	

第6分科会	佐賀市立新栄小学校
<公開授業領域> ①保健（けがの防止） ②走・跳の運動（高跳び） ③ボール運動（ソフトバレーボール）	
<分科会研究主題> 運動やスポーツの楽しさを味わい、仲間と共に主体的に運動やスポーツに親しもうとする児童の育成 ～学習内容の明確を明確にした体育の授業づくりを通して～	
<授業の見どころ> 児童の姿!!	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：主体的に課題を見出し、解決に向けて事故やけがの原因を考えます。対話によって思考を広げていく姿をご覧ください。 公開②：授業前半は自己の記録への挑戦を、後半はチーム対抗戦として競争を行います。仲間と共に楽しむ姿をご覧ください。 公開③：キーワードは「時間・空間・仲間」です。児童が課題解決のためにどんな試行錯誤をするのか、得点を決めた時の嬉々とした児童の姿、活動に熱中する児童の姿をご覧ください。	
<指導助言者> 愛媛大学 日野 克博	

第5分科会	佐賀市立神野小学校
<公開授業領域> ①ボール運動（ゴール型：ハンドボール） ②ボール運動（ゴール型：バスケットボール）	
<分科会研究主題> 仲間と共に学び合い楽しみながら運動に取り組む児童の育成 ～「わかる」ことと「できる」ことを往還させる対話的な学びを通して～	
<授業の見どころ> 児童が自分の力にあつためあてをもって主体的に学習に取り組む中で、仲間と話し合い、活動を工夫しながら高まっていく授業づくりを目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：自分やチームの課題を明確にして、児童一人一人が懸命にチームメイトとかわり合いながら、チームのために懸命にプレイしたり、アドバイスしたりする姿をご覧ください。 公開②：自分やチームにあつためあてを設定し、その課題解決に向けて準備運動を選んで活動したり、自分のチームに思い入れをもって声かけをしたりしてゲームに夢中になって取り組む6年生の姿をご覧ください。	
<指導助言者> 佐賀大学 堤 公一	

第8分科会	佐賀市立大和中学校
<公開授業領域> ①保健（がんの予防） ②武道（剣道）	
<分科会研究主題> 運動やスポーツを通して、主体的・対話的で深い学びを実践する保健体育授業 ～「わかる」「できる」を実感できる授業実践～	
<授業の見どころ> 生徒が「わかる」「できる」と実感でき、仲間とともに課題解決に向け、主体的に取り組んだり、話し合い活動を通して自他の考えに気付いたりするなど対話的な活動につなげられる授業を考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：生徒の興味や関心を高め、学びや思考を深める学習活動を取り入れることで深い学びにつながっていく生徒の姿をご覧ください。 公開②：基礎基本の確認をはじめ、個人の課題やグループの課題を生徒同士で主体的に学び合いながら活動する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 福岡県 豊前市立角田中学校 藤田 弘美	

第7分科会	佐賀市立城西中学校
<公開授業領域> ①陸上競技（走り高跳び）	
<分科会研究主題> 仲間とともに向上を目指す学習の工夫 ～個と集団をつなぐ学習を通して～	
<授業の見どころ> 主体的・対話的な学びの中で、生徒たちが力を伸ばしていけるような、体育の授業をデザインしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 生徒が安全に跳躍に集中できるような環境のなか、生徒同士がポートフォリオ形式で撮りためた動画を比較したり、学習カードを活用したりして学習を深めます。練習方法を工夫して、仲間と共に技術の向上を目指す姿をご覧ください。	
<指導助言者> 立命館大学 大友 智	

第10分科会	佐賀県立佐賀北高等学校
<公開授業領域> ①球技（バスケットボール） ②武道（柔道）	
<分科会研究主題> 「生涯にわたって豊かなスポーツライフを送る」基盤となる保健体育授業のあり方 ～ ICT機器の利活用を通して ～	
<授業の見どころ> 男女共習による授業の展開を実践します。また、ICT機器（タブレットPC）の利用を通じた授業実践で、仲間同士の言語活動を促し、自分の考えを深め広げることができる授業を目指したいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：コミュニケーションツールとしてICT機器の活用と合理的な学習実践をご覧ください。 公開②：柔道は男女共習の授業展開が難しいと言われています。そこで今回は、ICT機器を用いて考える柔道の授業実践を提案します。性差や能力差等、いろいろな違いを乗り越え共習する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 岩手大学 清水 将	

第9分科会	佐賀大学教育学部附属中学校
<公開授業領域> ①器械運動（マット運動） ②体育理論（3. 人々を結びつけるスポーツ）	
<分科会研究主題> 生活を豊かにするための保健体育科の授業づくり	
<授業の見どころ> 主体的に課題解決に取り組むことや仲間との協働を通して、自らの考えを広げ、深めていく子どもたちの姿を見ていただきたいと思います。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：生徒たちが班・個人の実態に応じて課題を設定し、マット運動の集団演技を通して、その課題解決に向けてどのような取り組みを行うのか、学び合いながら活動する姿をご覧ください。 公開②：「スポーツは、人々を結びつける働きをもっている」ことについて、多面的・多角的な視点をもって、対話的な学びを中心とした活動を進めていきます。活動を通して、他者に「スポーツのどのような点が人々を結びつける働きなのか」について考え、説明できるような授業を目指します。	
<指導助言者> 宮崎大学 三輪 佳見	

第12分科会	佐賀県立中原特別支援学校
<公開授業領域> 球技（ネット型） バドミントン	
<分科会研究主題> 「わかった」「できた」「楽しい」思いを実感し、「またやりたい」思いを引き出す保健体育学習	
<授業の見どころ> 「思い」に寄り添い、手立てを工夫することで、「わかった」「できた」「楽しい」思いを実感し、主体的に運動に取り組む気持ち（またやりたい思い）を引き出していきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 「チーム中原」の合言葉を基に、生徒のその日その時の思いに寄り添った支援を心掛けています。教材・教具などの工夫に取り組み、それぞれのめあて達成に向け、技能などの能力差があっても、生徒それぞれが共に楽しむための授業実践を目指しています。	
<指導助言者> 筑波大学 澤江 幸則	

第11分科会	佐賀県立牛津高等学校
<公開授業領域> ①体育理論（ドーピングとスポーツ倫理） ②武道（なぎなた）	
<分科会研究主題> スポーツに関心を持ち、生涯にわたって仲間と協働してスポーツに親しむ態度や能力を育む保健体育学習	
<授業の見どころ> 女子9割、男子1割という比率の学校ならではの男女共習をお見せしたいと考えています。仲間と協働して学ぶ姿をご覧ください。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：東京オリパラ直前、そして国体・全障スポ大会の開催を控えている佐賀県だからこそできる体育理論の授業をお見せできたらと思います。 公開②：あまり触れることがない題材ですが、なぎなたについて学び、基本練習を繰り返し、課題解決に向けて、学び合いながら活動する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 早稲田大学 深見 英一郎	

和賀郡西和賀町立湯田小学校（岩手県）

<研究主題>

「子どもが主体的に学ぶ学習指導の在り方」

—教師一人一人が主体的で計画的な実践研究の推進を通して—

<研究の目的>

生活習慣の課題、体力・運動能力面の二極化解消に向け、子どもが主体的に運動したくなるような教材の工夫、「成果」のある体育授業の実践により体力向上を図る。

<研究内容と成果>

- 運動学習場面の確保や場づくり・段階的な指導の工夫により体育授業を充実させた。
- 学校生活の中に子どもたちが楽しんで行う体育的活動を取り入れ、成果につなげた。
- 家庭との連携を図り、生活習慣の安定化を図った。

水戸市立大場小学校（茨城県）

<研究主題>

「運動する楽しさや喜びを味わい、自ら運動に取り組む児童の育成」

—学び合いを生かした授業づくりを通して—

<研究の目的>

運動離れや体力低下等の課題を踏まえ、他者とのかかわり、学び合いを生かした授業づくりを通して、運動する楽しさや喜びを味わい、自ら運動に取り組む児童の育成を図る。

<研究内容と成果>

- 運動の楽しさ・喜び、学び合い等について、具体の捉えの共通理解を図った。
- 各学年の実態に応じた系統的な授業改善を図る取組を明確にし、主体性を育てた。
- 運動の習慣や体力の向上を目指した実践を、年間を通して継続的に行った。

川口市立原町小学校（埼玉県）

<研究主題>

「運動する楽しさやできる喜びを味わわせ、たくましさを育む教育の創造」

<研究の目的>

「たくましさ」を「自ら進んで運動に親しみ、粘り強く心身を鍛える力」と捉え、体育授業の充実と運動習慣の確立、家庭との連携で体力向上を図る。

<研究内容と成果>

- 研究仮説をもとに、取組の具体、育てる子ども像を明確化し、組織的に取り組んだ。
- 全教職員に体育授業における共通理解を図るため「原町小体育必携」を作成し、授業の質の向上を図った。
- 「生活習慣チェックシート」「体育だより」により、家庭との連携に取り組んだ。

平成30年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介

森田 哲史（もりた さとし） 埼玉大学教育学部附属小学校（埼玉県）教諭

<実績>

第58回全国学校体育研究発表大会埼玉大会常任委員（研究部部長）、基調報告作成
日本体育科教育学会ラウンドテーブル（発表者）、日本体育学会口頭発表 等

<体育授業における実践>

- 6年間を見通した指導計画の作成と、児童の発達の段階に即した系統的な指導の実践
- 動きの比較を視点とした、ICT活用による思考力、判断力、表現力等の育成

岩田 純一（いわた よしかず） 墨田区立業平小学校（東京都）指導教諭

<実績>

東京都小学校体育研究会「体づくり運動領域、多様な動きをつくる運動部会」正副部長
東京都開発研究委員 実証授業者、東京都教職員研修センター研修講師 等

<体育授業における実践>

- 精選された言葉掛けや支援により、児童のやる気を最大限引き出し、活気ある授業展開を実践
- 学びに向かう力、人間性等へのアプローチから、思考力・判断力・表現力、知識・技能の定着

森 哲也（もり てつや） 岐阜市立岐阜中央中学校（岐阜県）教諭

<実績>

第53回全国学校体育研究発表大会岐阜大会授業公開
岐阜県小中学校教育実践研究論文 最優秀賞、岐阜県中学校保健体育科研究部会研究主任

<体育授業における実践>

- 生徒の主体的な学びを生み出す相互援助活動を視点とした実践
- 課題解決を図るための「ペア・トリオ学習」や「課題別学習」等の小集団学習の工夫

相場 克哉（あいば かつや） 大野城市立御笠の森小学校（福岡県）教諭

<実績>

筑紫地区小学校体育研究会研修部長、福岡県・福岡地区小学校体育研究大会運営
福岡県教育実践研究優秀賞、国立教育政策研究所教育課程研究指定授業実践

<体育授業における実践>

- 「考える」「やってみる」「振り返る」実践による課題解決的活動の推進
- 動きの変化や思考、意欲の振り返りの手だての工夫を図ることによる「見える化」の実現

廣田 哲也（ひろた てつや） 大分市立大在小学校（大分県）教諭

<実績>

大分県小学校体育研究会研究部長、大分県小学校体育研究会事務局長
大分県小学校体育研究会夏季中央研修会、研究協力校日田大会 実践報告、基調提案

<体育授業における実践>

- 運動の特性を味わえる指導方法を工夫し、運動が苦手な子どもも意欲的に取り組む学習実践
- 技能レベル（より具体的な評価規準）を記載した学習カードの活用による指導と評価の一体化

平成30年度 全国学校体育実技指導者講習会について

—実技内容のポイント—

幼稚園・保育園の部

第四十九回全国幼児の運動あそび指導者講習会 報告

日時：七月二十四日（火）

午前九時～午後四時四十分

会場：東京都千代田区立千代田小学校 体育館

主催：公益財団法人 日本学校体育研究連合会

主管：幼児の運動あそび研究会

参加者数 十七名

1 主題「運動あそびの充実感につながる環境構成と援助のあり方」

2 趣旨 改訂幼稚園教育要領に基づき、幼児の自発的な活動としての遊びに必要な環境づくりについて学習する

3 講座名と内容

◎講座1「楽しい幼児の表現ダンス」（実技）

講師 板橋区立板橋第三中学校 主任教諭 岡本和隆先生

(1) パースペーライングループ分

(2) 二人組でストレッチ (3)

自己紹介足し算リズムゲーム

(4) 変化のある動きでリズムに乗るという内容で、心と体を開放して動物やものになりきり、全身を動かすことの楽しさを体験することができた。

◎講座2「保育士のためのボディセルフケア」（講義・実技）



講師 健康運動士、パーソナルトレーナー、都立看護専門学校非常勤講師 佐藤明子先生

●健康で長く働くためには、日々のセルフケアは欠かせないとして、保育士に起こりやすい腰痛・関節痛・精神疾患などの症状の紹介、特に脱水には注意が必要とのこと。

自分を守るためのケアの例として①足指のフットケア ②ゆっくり動くストレッチ ③体幹トレーニングを行う際のコツについて実技を交えて教えていただいた。

◎日本学校体育研究連合会の事業紹介（村上みな子理事）

【昼食】

◎講座3「幼児期の健康な心と体を育む計画と実践」（講義）

講師 元創価大学教職大学院

教授 角田富美子先生 前千代田区立富士見こども園長 大関邦子先生

●教育要領改訂に伴う健康な心と体を育てるための指導について、幼児を取り巻く社会の現状と課題・幼児期における運動の意義・運動の行い方と配慮事項の解説

●運動遊びを見る視点①身体的②社会情動的（非認知能力）③知的に基づき3・4・5歳児の運動遊びの実践例を紹介、評価についてもカリキュラムマネージメントの必要性・子どもの気持ちを理解した環境の再構成に努める大切さを学ぶことができた。

◎講座4「多様な運動遊びで神経細胞を刺激しよう」（実技）

講師 創価大学教育学部児童教育学科教授 井上アヤ子先生

●スキヤモンの発達曲線、脳のシナプスの密度と年齢のグラフから、脳を鍛えるには運動させるしかないという力説、幼児期は運動遊びの中で動きや対人関係の基礎が育つのでたくさん遊び込む必要がある。今回は『滑る』運動に絞り、両足・片足・尻・背中などで実際に滑ってみて、体幹の大事さを実感した。

◎講座5「36の基本動作を高めるための運動遊びを保育の中に

取り入れるには」（実技）

講師 東海大学体育学部 生涯スポーツ学科准教授 知念嘉史先生

●運動や遊びに対する考え方と子どもたちが意欲的に遊ぶ環境設定や指導について解説。子どもにたくさん遊んでほしい、そのために楽しいと思える遊びを与えることとして、①バッグ・トス・ゲーム ②ボックスホップ ケー ③ゴム跳び ④ケンス テップ ⑤棒移動掴み ⑥バドミントン・シャトル ⑦風船キックの運動紹介を聞き、それぞれ個人・グループで実技を通して楽しさを体感した。

【今回のポイント】

会場校のご理解ご協力により、暑い中にもかかわらず快適な環境で実施できた。運動遊び



の大切さが指摘される中、5講座を実施したが、どの講師もその道の専門家であり、解説・指示・援助などが分かりやすく、受講者は幼児に成り切ったようによく聴き・考え・協力して動き、自園へのお土産をたくさん持ち帰ることができた実りある指導者講習会であった。

小学校の部

会場：千代田区立昌平小学校
受講者：百六十名（東京都、兵庫県、愛知県等から参加）

一日目：七月二十四日（火）

①水泳運動

〈室内プール〉

講師 東海大学教授 大越正大先生

- 水に慣れ（水遊び）
- 顔水つけ・ボビング・ジャンプ
- 水かけっこなど



○初歩的な泳ぎ、安全確保の運動・変身遊び

- ばた足呼吸、立ち方
- エレメンタリーバックストロークなど

○浮力を利用し、抵抗を避ける

- かけっこターン、け伸び、ロケット遊び

○推進力を得る、長く泳ぐ①

（クロール）

- ばた足、キャッチアップ
- 横向き呼吸
- キャッチアップ呼吸など

○推進力を得る、長く泳ぐ②（平泳ぎ）

- プールサイドでキック
- 腰掛けキック
- 壁キック・板キック
- スタンドプルなど

☆水遊びから水泳運動へのつながりが理解でき、学び合うという視点を大切にした講習内容であった。

②ボール運動

〈屋上校庭〉

講師 千代田区立お茶の水小学校主幹教諭 関口亮治先生

他 東京都小学校体育研究会部員5名

○準備運動

- ボール慣れ、ボール操作
- 蹴る、止める、運ぶ
- ナンバリングパスなど
- ラインサッカー、ミニサッカー



を基にした易しいゲーム

- 3対3でラインマンをつける

- 記録カードを活用したアドバイス

〈体育館〉

○準備運動 ○ボール慣れ

○パノラマゴール

- 4対4のゲーム・コート内の指定区域を通過したら1点。

○ゲームのまとめと振り返り

- チームの課題について話し合い、共有する。

○4分間ゲーム

☆後半より、屋上校庭の気温が上昇したため、急遽予定を変更し、体育館での研修とした。課題を共有する場面を設定することでゲームの様相が変化した。授業にすぐ活用できる資料も豊富に提供された。

富に提供された。
二日目：七月二十五日（水）

③表現運動

講師 帝京科学大学 望月崇博先生

○表現運動はどのように教えるのか

- ダンス（舞踊）とは何か
- 舞踊（遊び）の展開
- 二人組での心ほぐし、動きほぐし
- うつ伏せ状態に乗ってローリングなど



●リズムを変えて（時間のくずし）、奥行きを加えて（空間のくずし）、時間＋空間のくずし

●二人組でタッチ&ゴール（人間関係のくずし）

○リズムダンス

●ボンゴのリズムに乗って動く

●へそを動かすことがリズムダンス

○今日使った動きを活かした三分間程度の表現を創作・発表会
☆参加者の表情が時間を追うごとに柔らかくなり表現することの楽しさを味わうことができる研修となった。

④陸上運動

講師 国士舘大学教授 細越淳二先生

○学習指導要領改訂について



○動きづくり

- ペアを見付け合える動き
- 相手を見付けて大げさに驚くなど

○四つのくずし

- 指の動きに合わせて体を動かす
- 動きながら（体のくずし）

○準備運動リズムジャンプ、ム

カデジャンプ、ケンパ跳び

○短距離走・リレー・フラット

走、新聞紙走、しつぽ走など
(まっすぐコース。くねくねコー

ス。ジグザグコースで)

*場や条件の違いと動きの変

化・ハンドタッチバトンパス

*減速の少ないバトンパス

○ハードル走・ミニハードル、
様々な間隔のインターバルから

一定の間隔のインターバルへ。
一步ハードル、ショートイン

ターバル(短いインターバルを
素早く3歩で)

*素早く大きく体を動かして走
り越す

○走り幅跳び、走り高跳び

●踏み切りゾーン1m幅跳び

(1mの踏みきりゾーンで
ト・トーンの2歩踏み切

り)・走り高跳びの場づく
り・クロスゴムと2本ゴム

*振り上げ足と抜き足の動
き、大きな弧を描く跳躍

○投の運動(遊び)

●ロケットボール投げ

●くるくるボール投げ

*教具の開発、場の工夫、ゲー
ム化された教材の開発

☆スタートの方法やストライド
とピッチの関係などを分かりや

すく詳しく説明され、参加者が
うなづく場面が多くある有意義

な研修会であった。

中・中等教育・

高等学校・

特別支援学校の部

日時：平成三十年七月二十七日

(金)

会場：東京都新宿区立新宿中学

校 視聴覚教室及び体育館

陸上競技

講師 高野進先生

東海大学体育学部教授、特定
非営利活動法人日本ランニン

グ振興機構理事長
体づくり運動

講師 兼平 誠先生

東京都世田谷区立三宿中学校
主幹教諭

本講習会は、全国の特別支援

学校・中学校・中等教育学校・
高等学校保健体育指導者が、体

育の指導技術の向上を図り、資
質の向上と指導の充実・発展を

目指すことを目的として行われ
ました。

本年度は、午前の部では、「走

運動の重要性と基本理論及びそ
の具体的な指導法」、そして、

午後の部では、「体づくり運動
の授業づくり」について、理論

編と実技編の二部構成で実施し
ました。

〈午前の部：陸上競技〉

理論編では、速く走るための

技術について、下記の内容につ

いて説明がありました。また、
世界記録保持者のウサインボル

ト選手や日本記録保持者の桐生
祥秀選手の走法を例に挙げ、速

く走るための技術について、科
学的かつ具体的に説明されまし

た。①「歩く」と「走る」の違

い。②よい走りのイメージ。③
ランニングの力学的特徴。④効

率よく走るためのポイント。⑤
スピードを決定づける要素。⑥

速度と疾走フォーム。⑦走るた
めの四つの技能。⑧3つの疾走

局面(4・1ラン)
※「4・1ラン」とは、疾走局

面で、接地局面から支持局面の
ときに、着地している脚は1の

字のように地面と垂直になり、
また、次の支持局面では引き上

げた足は、4の字のように膝と
足が地面と平行になり、ドライ

ブ局面に移行すること。
実技編では、速く走るための

技術(4・1ラン)を習得する
基本ドリルについて、段階的な

練習を行いました。①正しい立
位姿勢をつくる(イメージは、

しつかり空気の入ったよく弾む
ボール)②沿道方向への地面反

力を受ける(二人一組で人間ド
リブル)③片足で地面反力を受

ける(4の字けんけん)④交互
に地面反力を受ける(4の字

高野進先生が理事長を務める
特定非営利活動法人日本ランニ

ング振興機構ETPでは、これら
の理論や練習方法、補助教材に

ついて紹介されています。

〈午後の部：体づくり運動〉

理論編では、(1)学習指導要領

における体づくり運動の取り扱

いについて、(2)新学習指導要領
改訂スケジュール及び改定の要

点について、(3)体づくり運動の
授業計画について説明されまし

た。

体づくり運動は、小学校から
高等学校まで通して行う領域で

あること、また、時数について
は、中学校では、各学年七単位

時間以上実施することとなつて
おり、毎時の授業で10分程度の

運動を行うなど、帯で扱うこと
で体づくり運動を実施したこと

について、スプリント力を高め
る基本ドリルについて行いまし

た。①構えのつくり方(最もパ
ワーが発揮できるポジションと

腕の使い方)②一次加速(どこ
から、どのように動かすか)

(スタートの構え・注意集中と
反応部位)

③二次加速(ストライドの拡大)
(すり足ダッシュ・前傾加速8

秒×12秒)④トップスピード(最
大ピッチ×最大ストライド)

(ピッチ×テンポアップ・スト
ライド…マーク走)



にはならないことが確認されました。

実技編では、体ほぐし運動（交流・調整・気付き）と体力を高める運動（体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力）について行われました。

1 体ほぐしの運動

運動のポイント…

仲間と関わり合いながら運動することを重視する。

①関わり合うことで、楽しさと心地よさが増す。（交流）

②心の状態が軽やかになる。体の状態が整う。（調整）

③体がほぐれると心がほぐれる。心がほぐれると体がほぐれる。（気付き）

(1) ニックネームパス（六人グループで円陣）

①自分のニックネームを伝えながらボールをパスする。

②パスするときに、「○○の隣の△△です」という。

(2) チームジャグリング（順番固定で全員にパス）

①パスの相手を決めてパスする。

②ボールを二個に増やし素早く回す。

(3) ホグコール（集団の中で二人組が離れる）

①全員目隠しをして、集団の中からパートナーを探す。



②合言葉を決める

(4) ラッシュアワー（狭いエリアを二人で行う鬼ごっこ）

(5) シュワッチ（狭いエリアで行う氷鬼）

①エリアを決め、追ってくる鬼から逃げる。捕まればその場で凍る。

②逃げる方は歩き、鬼は走ってよい。

③二人で手をつないだ手で囲えば復活できる。

(6) 発射（エリア内を動き回り、相手に手拭いをぶつける）

①一人は目隠し、もう一人が言葉で誘導する。②近づいたら手拭いを発射し相手にぶつける。

2 体力を高める運動

運動のポイント…

①運動のコツを伝える。お互い

にアドバイスし合うようにする。
②保健や体育理論で学習した知識を活用する。

(1) つっぱり棒（二人一組）

①両手を伸ばしてお互いの手の平を合わせ、足の位置を少しずつ後ろに下げ、限界で止める。

②離れた位置から、タイミングを合わせ、つっぱり棒の状態になる。

(2) つま先フェンシング（二人一組、三人一組）

①手をつなぎ、お互いの足を踏み合う。②隣の人の足を踏み合う。

(3) しっぱ取り（二人一組、グループ）

①腰の後ろにつけたハチマキを取り合う。②グループの最後列者のハチマキを取り合う。

平成三十年度ジャスぺ足育（あしいく）の推進について 足が変われば『明日』が変わる

中国の古典『大学』に

は、次のような言葉が記されている。「君子は、独りを慎む」一人でいる時もその行動は、常日頃と変わらないことであるという。足育のゴールイメージも正にこの言葉の通りである。靴紐を解き、トントンと靴の踵に合わせ、ギュッと紐を結べる。誰が居ようと居まいと自然にこの行動がとれることを考えている。

さて、次期学習指導要領

の目指す資質・能力の育成の視点で指導資料集第三集の作成を行った。なかでも足育の「見方・考え方」の検討に重点を置いた。「見方・考え方」は、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の評価規準でもあると考え、次のように記述した。

「足の構造・機能や適切な靴の履き方・選び方に着目し、足や靴についての課題を比較・分類したり総合したりすることで科学的・実践的に理解し、自己の生活

と結び付けることによって、足や靴に関する望ましい生活習慣を確立し、積極的に運動に取り組むなど生涯にわたる足元からの健康づくりに関連付けること」

※本年度の取組

一 足育推進委員会 十六回

①足育指導資料集第三集の作成（次期学習指導要領の趣旨を踏まえた対応）

②佐賀全国大会への対応

③靴教育の受講（六回目）

④推進園校の実施状況把握

二 足育調査研究委員会五回

①調査の実施と分析

②港区立高輪幼稚園実践報告会・葛飾区立松上小学校発表会の報告

③足育指導資料集「見方・考え方」『目標』など

④靴医学発表内容の検討

三 出前授業・講演

①児童対象…葛飾区立松上小学校、新宿区立市谷小学校、世田谷区立松原小学校

練馬区立早宮小学校、練馬区立南町小学校、江戸川区立船堀第二小学校、杉並

区立高井戸第三小学校

②教師・保護者…袖ヶ浦市小・中学校体育部、新宿区立早稲田小学校、千代田区小中学校養護教諭部会、調布市立飛田給小学校、世田谷区立松原小学校、世田谷区立松原小学校、墨田区立業平小学校、港区青少年対策青山地区共育懇談会

○児童…一〇七一名

○保護者…三八九名

○教員…一三六名

四 平成三十年度の取組

(一) 推進幼稚園と小学校

○港区立青南幼稚園

○東村山市立八坂小学校

(二) 出前授業

○杉並区立高井戸第三小学校

○江戸川区立船堀第二小学校

○練馬区立南町小学校

○杉並区立桃井第三小学校

(三) 全国大会埼玉県

①平成三十年八月十日・金

②会場

(四) 活動内容

①足育、靴教育の取組内容の明確化

②足育マイスターの実現

③第3集の作成について

④養護教諭の保健室における「ギュッと足育」

⑤靴教育の導入

⑥ジャフパ30周年記念事業…十二月八日・土

⑦全国学校保健主事研究大会での基調提起（七月二十五日・仙台）

⑧全国養護教諭研究大会での出前授業（八月四日・台東区）

足育推進委員会委員

○内木勉（練馬区立大泉北小学校校長）委員長

○眞砂野裕（昭島市立光華小学校副校長）

○難波誠二（台東区立根岸小学校副校長）

○武田千恵子（足立区立足立小学校主任教諭）

○関口亮治（千代田区立お茶の水小学校主幹教諭）

○吉川則久（奥多摩町立古里小学校主幹教諭）

○濱田 哲（台東区立石浜小学校主幹教諭）

○小島大樹（調布市立第三小学校指導教諭）

○西島秀一（世田谷区立松原小学校主任教諭）

○両角知子（八王子市立第五小学校主任教諭）

○前村章太（台東区立根岸小学校主幹教諭）

○平 武史（台東区立根岸小学校主幹教諭）

○岩田純一（墨田区立業平小学校指導教諭）

○青木大輔（葛飾区立南奥戸小学校主幹教諭）

○寺内周平（葛飾区立松上小学校主任教諭）

○市川洋一（東村山市立八坂小学校主任教諭）

○丸田樹理（足立区立花畑第一小学校養護教諭）

○村瀬智美（品川区立源氏前小学校養護教諭）

○倉前広子（江戸川区立船堀幼稚園主任教諭）

○金木麻美（港区立高輪幼稚園教諭）

○早川家正（日本教育シューズ協議会理事長）

○武原充宜（日本教育シューズ協議会理事）

○早川侍揮（日本教育シューズ協議会理事）

27

「学校教育における足育について」

足育の見方・考え方

足の構造・機能や適切な靴の履き方・選び方に着目し、足や靴についての課題を比較・分類したり総合したりすることで科学的・実践的に理解し、自己の生活と結び付けることによって、足や靴に関する望ましい生活習慣を確立し、積極的に運動に取り組むなど生涯にわたる足元からの健康づくりに関連付けること。

生涯スポーツの考え方が定着し、各世代に応じた運動に親しむ姿が多く見られている。しかし、児童の体力はというと、低下傾向に歯止めがかかったとは言え、まだまだ低レベルにあったり、運動の二極化が著しくなったりしている。未来を担う子供が心身ともに健康であるためには、自分の体に気付き、健康な生き方について学ぶ力を育て

ることはとても重要である。

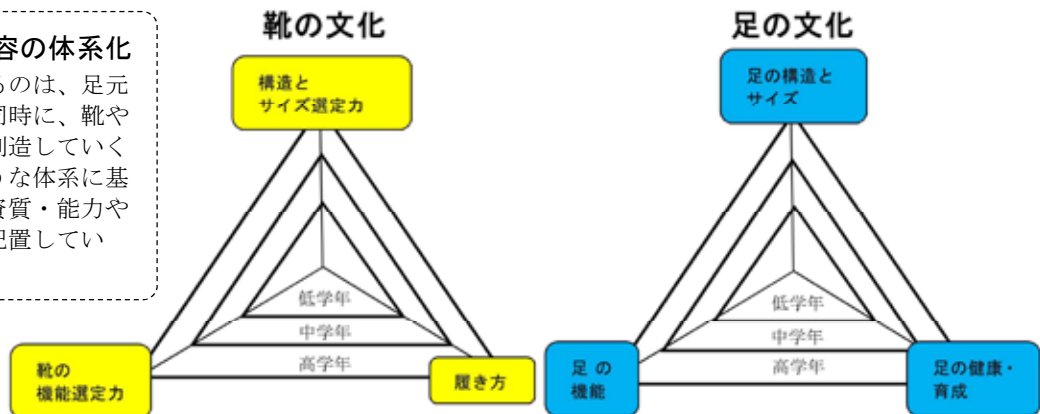
そこで、第二の心臓と言われ、様々な運動を支える足の構造や機能、適切な靴の履き方・選び方に着目し、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法を充実させることで、科学的、実践的な理解を図り、「自分の体への気付き」「健康な心と体」といった自己の生き方につなげていく。

JASPE足育の目的

「足が変われば、動きが変わる！足が変われば、明日が変わる！」をキャッチフレーズに、「足育」が健康な児童を育むための有効な手だてであることを実証するとともに、生涯にわたる足元からの健康づくりを具体化していく。

足育で着目する内容の体系化

足育で目指しているのは、足元からの健康づくりと同時に、靴や足についての文化を創造していくことである。図のような体系に基づき、育成を目指す資質・能力や指導内容を意図的に配置していく。



足育の目標

足のもっている働きや適切な靴の履き方、選び方など足元からの健康についての理解と日常的な取組を通して、足元からの健康づくりを実践する力を身に付け、生涯にわたる楽しく明るい生活を営む態度に結びつく資質・能力の育成を目指す。

表1 足育で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①足の構造や機能がわかる。 ②足の健康のための運動の仕方、正しい体の姿勢がわかるとともに、実行することができる。 ④足の健康を保持するための洗いや爪の切り方がわかるとともに、実行することができる。 ④靴の性能や機能がわかる。 ⑤靴のサイズや靴の正しい履き方がわかり、日常生活で実行することができる。（正しい履き方行動力）	①自らの足や靴の課題を見付け、その課題を解決するための情報を収集する力 ②学んだことや足や靴に関する自分の考えを伝える力 ③自分に合った靴や歩き方に合った靴を選ぶことができる力（靴サイズ選定力、靴の機能性選定力）	①自分の足や靴に関心をもつ。 ②自他の健康の保持増進のために協力して取り組もうとする。 ③足育を通して、学んだことを実生活、実社会で生かそうとする。 ④誰もが健康になるよう行動しようとする。 ⑤健康に過ごすために、常に正しく行動しようとする。 ⑥足や靴について新たな情報を学ぼうとする。

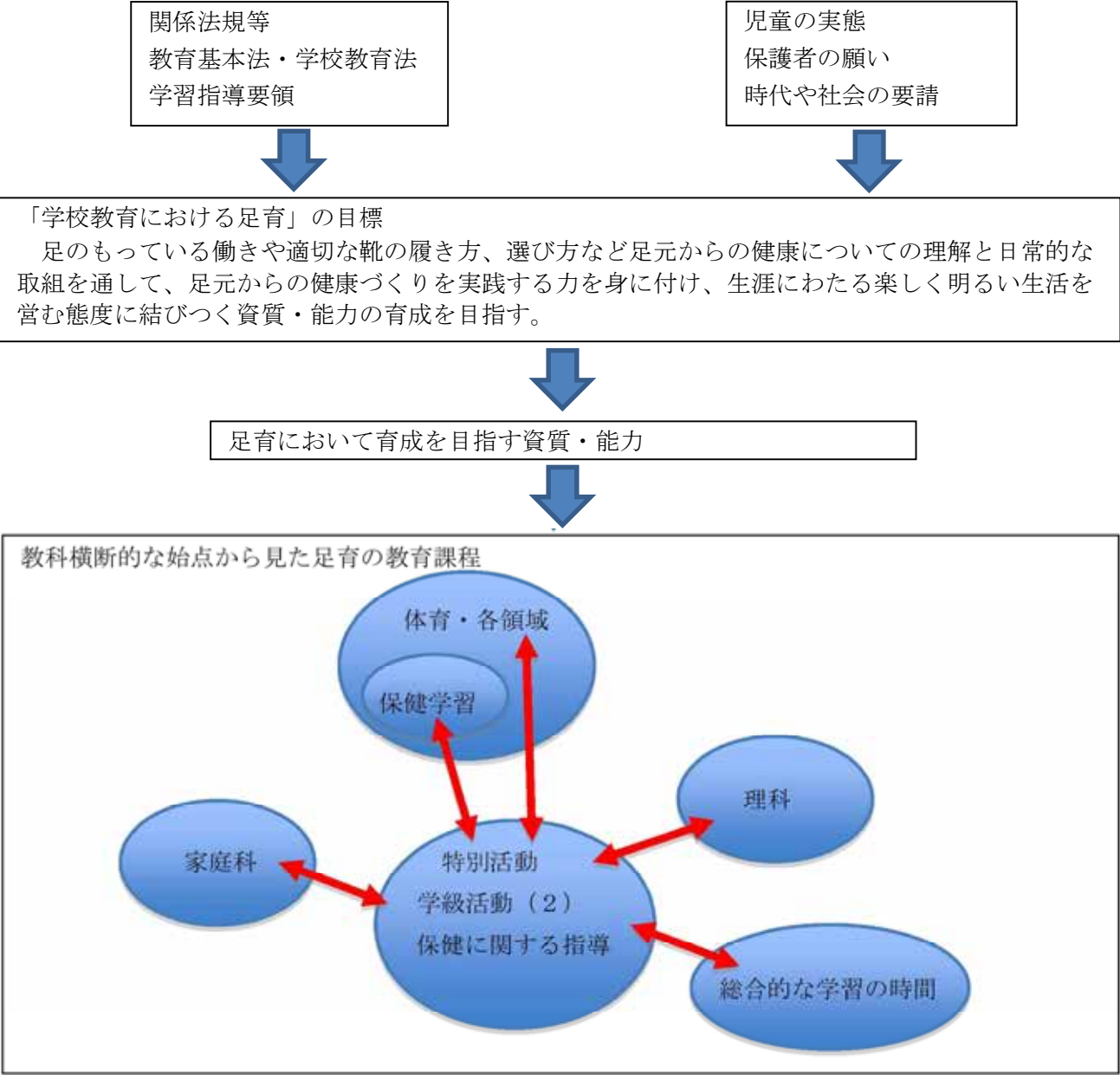
表2 足育の各学年の指導内容

	知識及び技能		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	足に関する内容	靴に関する内容		
1 ・ 2 年	○正しい姿勢（立位・座位）ができること。（４５） ○足指を動かすことができること。（４５） ○足を清潔にする重要性がわかること。（ギュ） ○かかとの働きを歩き方と関連させてわかること。（ギュ）	○正しい靴の脱ぎ方や履き方がわかること。（４５） ○正しく靴を脱いだり、履いたりすることができること。（４５） ○靴の中で足の指が動くことの大切さがわかること。（４５） ○靴を履いているときの自分の足の状態がわかること。（４５）	○自らの姿勢や靴の履き方の課題を見付けること。 ○姿勢や靴の履き方について、どのようにすればよいか伝えること。	○自分の姿勢や足に関心をもつこと。 ○友達と足指体操をしようとする事。 ○靴を正しく履こうとすること。 ○健康に過ごすために、運動に取り組もうとすること。
3 ・ 4 年	○土踏まずの機能についてわかること。（４５） ○土踏まずの構造と機能の関係についてわかること。（４５） ○正しい爪の切り方がわかり、実践することができること。（ギュ）	○靴には留め具が重要であることがわかること。（ギュ） ○靴はかかと周りが硬いことが重要であることがわかること。（ギュ） ○靴底が歩き方に合っていることが重要であることがわかること。（ギュ）	○足型の比較を通して、土踏まずと健康に関する課題を見付けること。 ○土踏まずについて学んだことを伝えること。 ○歩き方に合った靴を選ぶこと。	○自分の土踏まずについて関心をもつこと。 ○友達に足指体操の仕方を教えようとする事 ○足指を動かそうとすること。
5 ・ 6 年	○靴下のサイズが足の健康と関係することがわかること。（４５） ○足のサイズを測ることができること。（４５） ○足は多くの骨でつくられていることについてわかること。（ギュ） ○足が第二の心臓と言われることを構造と機能に関係付けてわかること。（ギュ）	○自分の足に合った適切な靴を選ぶことの重要性がわかること。（４５） ○靴のサイズが、足の健康と深く関係していることがわかること。（４５）	○フットプリントや観察から、自らの足や靴の課題を見付けること。 ○足の健康のための情報を収集すること ○足と靴の健康のかかわりについて考えたことを伝えること ○足のサイズに合った靴を選ぶこと	○自分の足と靴の健康のかかわりに関心をもつこと。 ○友達と計測したり、課題を解決しようとしたりすること。 ○自分に合った靴を選ぼうとすること。 ○学んだことを多くの人に伝えようとする事。 ○足や靴について新たな情報を得ようとする事。

（４５）・・・４５分での授業で扱う内容

（ギュ）・・・「いつでも・どこでも・どの先生も」短時間に指導できる「ギュッと足育」にて扱う内容

J A S P E 足育の全体計画（例）



足育の指導計画（例 ６年生）

	４月	５月	６月	７月
特別活動	・最高学年になって	・自分に合った靴の 選び方の理解	・内遊びの工夫	・夏休みのくらし ・宿泊行事に向けて
体育	・体づくり運動	・陸上運動	・水泳運動	・水泳運動 ・病気の予防
理科	・物の燃え方と空気	・動物のからだの はたらき	・植物のからだの はたらき	・生き物のくらしと 環境
家庭科	・私の仕事と 生活時間	・朝食から健康な一 日の生活を	・夏をすずしくさわやかに	
総合的な学習の時間	健康：毎日の健康な生活とストレスのある社会			

本校では、「だれもが楽しめる
体育学習」児童が主体的に課題
を解決したくなる手立ての工夫
を研究主題に設定し、体育授業
の充実に向けた研究に取り組ん
でいる。

この数十年で子供たちを取り
巻く環境は大きく変化した。運
動経験の二極化が叫ばれて久し
い。子供たちは体力の低下から、
転びやすくなり、けがをしやす
くなっている。学校体育に課せ
られた課題は多い。また、人間
関係をうまく築けない子供や自
己表現が苦手な子など、コミュ
ニケーション能力の低下も危惧
されている。体育を通して心と
体の豊かな成長を願い、体育授
業を実践することが今、強く求
められている。

本校の児童を対象に行ったア
ンケート結果によれば、放課後
や休みの日の過ごし方として、
公園や校庭などで友達と遊ぶこ
とが少ない傾向にある。一方、
家の中でゲームをするなど、屋
内で遊ぶことを好む児童の割合
が高い。また、平成二十九年度
の学校評価アンケート調査では、
「休み時間に外でしっかり体を
動かしたか」という設問で、三



このような児童の意識の変化
は、体力の低下に拍車をかけ、
ストレスを溜める大きな原因と
なり、さらには豊かなスポーツ
ライフの妨げとなるのではない
かと懸念される。また、前述の
ような運動経験の差から運動の
二極化が今後さらに加速化する
ことが危惧される。

以上のことから、本校では体育
の授業改善を中心に研究を進め
ることにした。

すべての児童が体を動かす楽
しさを十分に味わい、「できるよ
うになりたい」など、運動への
関心・意欲を高めていくことが

できれば、自ら進んで運動し、
主体的に学ぶようになるのでは
ないかと考える。

なお平成三十年度東京都小学
校体育研究会多摩地区発表の会
場校の指定を受けている。体育
研究を進めていく上で、心強い
思いである。さらに平成三十・
三十一年度足育研究推進校の指
定を受けられたことは、本校に
とってこの上ない喜びである。

人間の構造上、足の役割は非常
に大きい。子供たちが足につい
て正しい知識をもち、日々の生
活に生かすことができれば、運
動に関する「見方・考え方」も
自ずと変わっていくのではない
かと期待される。

平成三十年度の足育の取組

正しい靴の履き方を知り、
日々実践することが、なぜ大切
なのかを、子供たちが実感でき
ることが重要である。

◎児童を対象にした実態調査
三年生児童全員を対象に、足
裏の型を取り、どんな足の形を
しているかについて興味をもて

るようにした。また、アンケー
トを実施し、「自分の足の長さを
知っているか」や、児童が日常
的に身に付けている靴は「どの
ように選んでいるか」「靴をいつ
もどのように履いているか」
など、足や靴のことについての
質問を基にアンケート結果をま
とめ、実態を浮き彫りにしてい
く。

◎保護者を対象にした実態調査

足育は、児童だけでなく、そ
の保護者も一緒に学ぶことで理
解は大きく深まり、足育の推進
も加速すると考える。本校では、
保護者を対象にした、わが子の
足に関する質問調査を行う。「子
供の足の長さを知っているか」

「子供が履いている靴の形を覚
えているか」「子供の靴をどのよ
うに選び、買い与えているか」
「子供の足や靴に関するトラブ
ルや悩みがあるか」といったよ
うな質問内容である。

集計した調査結果は、学校だ
より等を通じて保護者にも発信
していく。学校をあげて足育を
推進していくことが大きなねら
いである。

また、足育に関する専門家を

本校に招聘し、保護者向けに講
演会を実施することも現在検討
中である。

◎授業を通じての足育

全校朝会などを通じて、児童
全員に正しい靴の履き方を指導
するとともに、その後も正しく
靴を履けているかどうか、継続
的に指導していく必要がある。

また、各学年の児童の実態に応
じた足育の指導を行う。

そのために、全職員が研修等
を通じて足育の指導技術を磨い
ていく。児童の発達段階に応じ
た指導案を検討し、授業後には、
指導の振り返りを行うことで、
指導の改善を図っていく。



一 研究の概要

本園は、起伏に富んだ自然豊かな園庭がありますが、運動遊びに対しての幼児の意欲に個人差がみられます。また、自信がなく一つ一つの行動を教師に確認する幼児も多いです。

そこで、幼児が遊びの中で様々な動きを知り、体を動かすことを楽しむための環境構成を考え、援助方法を模索することで、主体的に体を動かし、自信をもって行動する幼児を育てたいと考え、研究主題を設定しました。そして、次のように、仮説を設定しました。

【仮説】

教師が、幼児の動きや意欲を引き出すことができるような環境の工夫（場所・物の配置・遊具の出し方等）を考え、実践することで、幼児は経験を積み重ねて自信につながり、できる・できないではなく、いろいろなことに取り組もうとする気持ちをもてるようになる。

二 研究の内容と方法

○ 幼児の動きや意欲を引き出すことができるような環境と援助の工夫（教師自身の足育研究、教材開発、事例検討、園庭マップの作成、指導計画の検証）

○ 幼児の実態の把握（体力測定、足計測）

○ 家庭との連携による足育の推進（親子での運動遊び、上履の貸与、アンケート調査、足育講演会の実施）

三 実践事例

【教師自身の足育研究】

まずは教師自身が足育について学び、今後の指導について計画を立てました。



9月から貸与する予定の子どもの上履を確認したり、貸与された上履を使いながら、正しい履き方を確認したりしました。



【講演会の実施】

港区青少年対策青山地区委員会と連携を取り、共有懇談会を行いました。日本学校体育研究連合会 足育推進委員会の菅原理事、日本教育シユーズ協議会の早川理事長、早稲田大学人間科学学術院招聘研究員の吉村先生をシンポジストとして、足育についてのご講演をしていただきました。たくさんの方々が参加してくれました。

【幼児の遊び】

4歳児は忍者のイメージで跳んだり這ったりバランスをとって歩いたりして、楽しみながら体を動かしています。



5歳児はミニコーンを置いて、ジグザグ氷鬼を楽しんでいます。ミニコーンをよけたり跳んだりしながら思い切り体を動かしています。

【園庭マップの作成】

学期ごとに作成し、どこでどのような遊びを実践したか、経験させたい内容とともに記録に残すことで次の保育に生かせるようにします。



埼玉大会2018

足元からの健康教育 “JASPE 足育” 研修会

平成30年8月10日（金）ホテルフリランテ武蔵野2階「エメラルド」

全国大会を翌年に控えた地域で夏季休業中に開催してきた JASPE 足育研修会も6回目を迎えました。今年度埼玉県で実施した研修会の様子をお伝えします。

主催者挨拶 （公財）日本学校体育研究連合会 会長 本村 清人
足育の実践を埼玉大会から、そして学校から積極的に発信していきたい。

共催者挨拶 JES 日本教育シューズ協議会 理事長 早川 家正
養護教諭の先生方を中心に学校教育を通じて足元からの健康づくりを進めていきたい。

挨拶 埼玉県学校体育協会 副会長 関 克則
埼玉での開催に感謝します。有意義な大会になることを願っている。

講演「学校教育の新分野・足教育とシューエデュケーション」
学術博士 早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員 吉村 真由美 先生



（１）靴のリスクを知る

6～7歳までは軟骨組織が多い。7～8歳で足の形の特徴が決まる。足の骨の成長は段階的であるため、柔らかい骨の時期にもったいないからといって大きめの靴を履かせることには注意が必要である。サイズの合わない靴を履いていたり、かかとを踏んで靴を履いていたりすることで、足にトラブルが起こる。整形外科を受診する子供もいる。靴を正しく履くことで、トラブルを防げる。「たかが靴、されど靴」である。

（２）ドイツに学ぶ正しい靴行動

ドイツは1000年以上の靴の歴史と文化がある。日本は戦後70年程度。ドイツの靴屋では、サイズを確認し靴は大人が選んでいる。靴は革素材で柄なし、折り返しベルトがついているものがほとんど。靴は経験と知識のある大人が選んでいる。一方、ランドセルは子供が選び、キャラクターがついたかわいいデザインのものが多く。学校では座って、両手を使って靴を履ける空間が設置されている。これは日本の靴に対する意識とは違ったものである。

（３）日本人の靴に対する概念と靴行動

日本ではキャラクターがデザインされている靴、カーブを速く走れる靴など子供に人気の靴が店頭に並んでいる。日本の靴は子供が喜ぶものが主流で、靴選びは子供に主導権がある。

（４）シューエデュケーションの実際

靴には様々なタイプがあるが、足の甲を「マジックテープや紐」で留められるものが適している。テープなどをきついと感じるくらい締めて、足の甲と靴をゆるみなくフィットさせることが大切。テープなしの靴は、足が前滑りしてしまう。中敷きが外せるもので、かかと周りが硬くてしっかりしているものがよい。自分の足の正しいサイズを知り、適した靴を選ぶ必要がある。



講演 「小学校における足育カリキュラムについて」
「小学校中学年における JASPE 足育の実際」

JASPE 足育推進委員

(1) Let's 足育 JASPE 足育概要説明

「なぜ今、足育なのか」について足育の概要説明を行った。年齢が上がるにつれて足トラブルが増加していること、上履きや足サイズの差と足のトラブルの関係性を示すとともに、足元からの健康づくりを目指して JASPE 足育の取り組みを紹介した。

☆「足育」を学校教育に！ 生活の中に！ 「足育」の専門家を！



足計測の体験



足育の概要説明

(2) ギュッと足育(模擬授業)

〈担任が指導する場合〉 「ADU (A…足を、D…どんどん、U…うごかそう)」

血液を全身に送る役割をしている心臓を助けるのが、第2の心臓といわれる足。足には全身の70%の筋肉が集まっています、足を動かすことで心臓のようにポンプの役目を果たし、血液の巡りをよりよくしていることを紹介した。心臓は意識的に動かせないけれど、足は意識的に動かせる。だから ADU を心掛け、健康な生活を送ることが大切であることを参会者の方々と共有することができた。



担任のみで行う模擬授業

〈担任と養護教諭が指導する場合〉

足型を見るポイントを3つ紹介した。また、江戸時代、大人世代、子供世代の足型を比較し、現代の子供たちが足に何らかのトラブルを抱えていることをデータで示した。それを防ぐためにも靴を正しく履くこと、足に合った靴を履くことを伝え、実際に正しい靴の履き方を体験してもらった。さらに、正しく靴を履くことで運動する力が高まることを、推進委員が代表で反復横跳びをして示した。最初はいつも通りの靴の履き方で反復横跳びを行い、次に正しい靴の履き方で反復横跳びを行った。実際に7回記録が向上した。



担任と養護教諭

〈養護教諭が指導する場合〉

自分の健康カードを見て体がどれくらい大きくなっているのかを比べた。身長が伸びたこと、昔に着ていた服が着られないことと同様に、靴も足に合ったものを履くことが大切であることを伝え、自分の靴や足への意識を高めた。



足指体操

〈足指体操〉

参会者と一緒に足指体操を行った。靴と靴下を脱いでもらい、手と足の握手、足を使ったじゃんけんを行って足指をほぐした。最後は「幸せなら手をたたこう」のリズムに乗って、足指体操を体験してもらい、すべてのプログラムが終了した。



足育推進委員

第三十二回靴医学会学術集会

JASPE足育の目指す幼児・児童・生徒の足元からの健康づくりの教育としての取組が、医科学のエビデンスにかなう実践であることを証明するために、靴医学会の検証を得ることとした。

【演題】

足育（あしいく）、足と靴の健康教育

— 学校現場における取組 —

Ashiku, Health education of feet and shoes,

Approach at school site.

【目的】

日本学校保健会(JES)（日本教育シューズ協議会）が小中学生から高校生まで一万百五十五名に行つた調査（平成十八〜二十年）では、四十三パーセントの子供が何らかの足のトラブルを抱えていることが分かった。しかし、学校の教育課程には足や靴について内容は示されていない。そこで、（公財）日本学校体育研究連合会では、足の構造・機能や適切な靴の履き方・選

び方に着目した足元からの健康教育である「足育」を学校教育に位置付けるため

に、公立幼稚園・小学校教諭・養護教諭等からなる足育推進委員会を設置し、教育課程や授業内容を計画・実施してきた。本研究では、足育推進校（園）での取組を通

し、足育の授業の取組による園児・児童の意識の変容について検討した。

【方法と結果】

足育推進校（園）として、都内の公立幼稚園・小学校を各一園・一校選定した。実施時期は平成二十八年四月より三十年三月とし、対象園児数は六十三名、児童数は四百六十八名である。取組内容として

（一）全園児・児童の足測定にもとづいた適合した上履きの貸与ならびに着用、

（二）足育授業の実施、

（三）児童を対象とした足育授業前後でのアンケート調査などを行った。

【考察】

（一）適合した上履きの貸与ならびに着用では、サイズの適合した靴をきついと訴える子供が多かった。

（二）足育の授業の実施では、足や靴の機能についての理解が深まった。

（三）足育の授業前後でのアンケート調査では、靴の履き方への意識の高まりが認められた。

【結論】

足育の授業を通して足や靴に対する正しい理解と健康な生活とを関連付けて行動できる園児・児童が増えた。今後は、自分の足のサイズに合った靴を正しい手順で履いた効果を、運動能力と体力の向上・けがの予防の見地からさらに検証し、幼稚園・小学校における足育の体系化を進めていく。

四十五分の授業を中核に、「いつでも・どこでも・どの先生も」短時間で指導できる「ギョツと足育」委員会活動での取組「足育週間の取組」「学校保健委員会での取組」等を「学校における足育」の教育活動と位置付けている。「足育調査研究委員会」では、取組のエビデンスのある調査、その効果の検証を行っている。また、「足育マスター認定制度」を活用した足育の専門家の育成等を通して、足育が『社会に開かれた教育課程』に発展することを目指し、その普及・啓発に取り組んでいる。

45分の授業

ギョツと足育

学校教育における足育

委員会活動

保護者や地域、諸機関との連携

学校保健委員会

足育週間の取組

カリキュラムマネジメント

専門家の育成

足育推進委員会

足育マイスター

調査研究委員会

認定制度

足育の効果検証

足育推進園

足育推進校

足育研修会

全国大会

出前授業

社会に開かれた教育課程

足育の普及・啓発

平成29年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (10,000 円)

北 海 道	松 田 昌 樹
	小 路 修 司
	佐 藤 和 英
岩 手 県	山 本 繁
	太 田 郁 夫
	渡 邊 好 章
秋 田 県	平 塚 和 博
	上 田 齊
山 形 県	奥 山 淳 一
	齋 藤 和 哉
福 島 県	水 谷 大
	丹 孝 平
	矢 館 実 也
埼 玉 県	萩 原 孝 之
	坂 井 順 司
千 葉 県	川 村 昌 広
	猪 狩 恵 司
	小 山 恒 明
東 京 都	渋谷 英 一
	白 井 千 晴
	橋 本 茂 樹
	茂 呂 雅 仁
	熊 野 真 司
	菅 原 淳 一
神 奈 川 県	鈴 木 和 裕
新 潟 県	佐 藤 正 樹
	渡 邊 義 光
	近 藤 拓 自

石 川 県	武 田 秀 一
福 井 県	田 行 史 子
岐 阜 県	杉 原 和
	谷 口 邦 彦
静 岡 県	堀 和 弘
	鈴 木 祐 司
山 梨 県	浅 川 英 三
愛 知 県	西 川 和 幸
	谷 口 亨
滋 賀 県	高 野 清
	川 嶋 典 明
大 阪 府	堀 田 守 人
	和 田 義 輝
	登 佐 博 之
兵 庫 県	朝 田 眞 司
	福 島 充 佳
和 歌 山 県	湯 川 泰 成
	西 川 彰 彦
	上 田 優 人
広 島 県	新 庄 讓 児
徳 島 県	阿 部 孝 彦
	天 羽 博 昭
愛 媛 県	芝 田 眞 次
	白 川 秀 樹
福 岡 県	川 上 裕 史
	木 村 英 樹
佐 賀 県	山 田 良 典
	小 川 聡

長 崎 県	國 分 章
熊 本 県	岩 下 昭 彦
大 分 県	櫻 井 康 弘
	升 巴 正 博
鹿 児 島 県	近 藤 伸 子
沖 縄 県	石 川 正 信

過年度高額個人賛助会員
平成 25 年度
青 森 県 柿 崎 紀 一

平成30年9月期 法人賛助会員

児島 株式会社
JES日本教育シューズ協議会
株式会社 学研教育みらい
株式会社 大修館書店
フットマーク 株式会社
教育シューズ振興会
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）
株式会社 第一学習社
株式会社 ギムニク
日進ゴム 株式会社
株式会社 光文書院
大日本図書 株式会社
東京書籍 株式会社
セノー 株式会社
廣済堂あかつき 株式会社
株式会社 ミカサ
一般社団法人 WSSA-JAPAN
ブランロッシュ 株式会社
東商アソシエート 株式会社
株式会社 文溪堂
株式会社 エバニュー
プラス 株式会社ジョインテックスカンパニー
株式会社 正進社
カシオ計算 株式会社

<大会協賛企業>

東武トップツアーズ 株式会社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております

誰でもかんたん＆楽しく 使えるボール

バランス感覚

投げる力



ソフトギムニクってどんなボール？

準備
片付けが
簡単

空気を抜くのは3秒!
膨らますのも簡単!

触り心地が
ソフト

身体に当たっても
痛くありません!

レベルに
合わせた
空気圧に
できる

空気を半分程にすれば
片手でつかめます!

座っても
大丈夫

耐荷重は100kg
あります!

リードプラスティック社製
ソフトギムニク (SOFTGYMNIC)

表面に凹凸がないフィット感のあるタイプ

NEW TYPE

カラーバリエーションは4種

95.09NR / レッド
95.09NG / グリーン
95.09NY / イエロー
95.09NB / ブルー

表面に凹凸がある手触りの良いタイプ

BASIC TYPE

カラーバリエーションは4種

95.09R / レッド
95.09G / グリーン
95.09Y / イエロー
95.09B / ブルー



特定非営利活動法人
日本Gボール協会
<http://g-ball.or.jp>



日本体操学会
<http://taisou.jp>



株式会社ギムニク
www.gymnic.com

日本学校体育研究連合会賛助会員

GYMNIC BALANCE

祝 第57回全国学校体育研究大会 佐賀大会



体育実技
スキルアップ
支援ソフト

見て、撮って、比べて、共有する。
体育とタブレットPCの親和性で、
スキル習得を確かなものに。

小学校
中学校

見る 豊富なお手本動画

撮る 自分の動きを撮影し、確認する

比べる お手本と、友達と、自分自身と

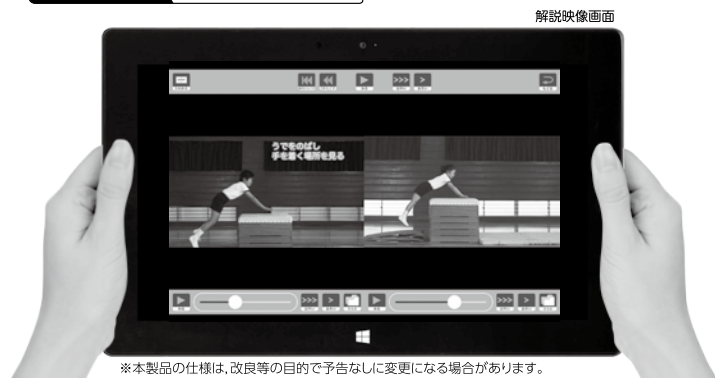
ホワイトボード 思考のツールとして

共有する 評価の資料に

お手本動画を見ることも、
自分の動作を撮って確認することも、
それらを比べることも、そして、共有することも。
本ソフトがタブレットPCを体育スキル向上の
強力アイテムに変身させます!

価格

学校内フリーライセンス **200,000円**(税別)



※本製品の仕様は、改良等の目的で予告なしに変更になる場合があります。



教育事業本部 営業部 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
義務教育部 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7481 Fax:03-5390-6012
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

スクールシューズのプレミアムスタンダード 教育シューズ® PK-X3



極める

グリップ性
耐久性
超軽量

technology



着脱・フィット感

- 靴のペロ部分は、靴紐でペロがずれないように一体カットになっています。
- 履きやすいようにペロの先端に引き上げつまみが加工され巻き込みを防ぎます。



かかと加工

- 踵にネームスペースと踏みつけ防止加工を施しました。



ソール

- 安定性
サイドスタビライザーによる、ねじれの防止
- ノンマーキング
オリジナルソール
最適なグリップ力で、前後左右の激しい動きに対応します。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218

FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

E-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp



児童書 学習内容が着実に身に付く2学年ごと編成

教師用指導書 今日の授業にすぐ使える6学年分の指導資料

学習指導要領完全準拠 小学校体育副読本

「たのしいたいいく」

- 学習内容が着実に身に付く2学年ごと編成。
- 運動イメージをとらえやすく、動きのコツがすぐわかるワイド判。
- 基礎・基本も工夫の例も満載。2段階での学習過程を強力に支援。
- 自発的な学習の意欲を高める「学習活動と振り返りのページ」
- チェック欄で、児童が身に付けるべき内容を明確に提示。
- 系統性・発展性に即した資料配列と紙面構成。
- 学校の実態に合わせて使える運動領域別編集。



判型：全学年 AB 判
オールカラー

1・2年生：56P

3・4年生：88P

5・6年生：112P

価格：444円＋税



株式会社 文溪堂

NEW! 校歌でダンスを踊りませんか?

アレンジ校歌・ダンスをCD・DVDでお届け!

point

アレンジも振付も
完全オリジナル!

point

体育の授業や運動会など
活用の機会がいろいろ!

point

地域に根付いた校歌なので
幅広い年齢層で一緒に楽しめる!

サンプル映像を
公開中!



ご利用料金
(参考)

校歌アレンジ・振付

1曲: ¥ **98,000** +税

出張ダンスレッスンも
ご相談ください!

PLUSの教材 
<http://pluskyouzai.jp>

プラス株式会社 ジョインテックスカンパニー 教育事業担当へお問い合わせください。

東 北: Tel 022-214-6623

関 東: Tel 048-642-7755

東 京: Tel 03-6205-8570

東 海: Tel 045-201-2121

中 部: Tel 052-262-1271

関 西: Tel 06-6241-0567

中四国: Tel 082-545-0201

九 州: Tel 092-283-5211

沖 縄: Tel 098-915-0066

足の成長を一番に考えた「教育シューズ」

教育シューズ®
A **イスMV3**



安全で快適な
ポイント

- 1 通気性
- 2 安定性
- 3 クッション性
- 4 快適性

教育シューズ®
プレミアム誕生!

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

E-mail: kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

【新体力テスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体力テスト準拠)

体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

230円(税込)



みつめたい教育と未来

第一学習社

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

- 大阪支社/☎06-6380-1391
- 新潟営業所/☎025-290-6077
- 横浜営業所/☎045-953-6191
- 福岡営業所/☎092-771-1651

- 札幌営業所/☎011-811-1848
- つくば営業所/☎029-853-1080
- 名古屋営業所/☎052-769-1339
- 金沢出張所/☎076-291-5775

- 仙台営業所/☎022-271-5313
- 東京営業所/☎03-5803-2131
- 神戸営業所/☎078-937-0255
- 沖縄出張所/☎098-896-0085



EVERNEW®

子どもたちの笑顔のために
安心・安全なグッズを
お届けしています

【本社】

〒136-0075

東京都江東区新砂 1-6-35

イーストスクエア東京ビル 6F

TEL 03-3649-3052 FAX 03-5683-5946

【大阪営業所】

〒542-0061

大阪府大阪市中央区安堂寺町 2-3-5

第18松屋ビル 9F

TEL 06-6762-2431 FAX 06-6762-2425

<http://www.evernew.co.jp>



運動・スポーツの教え方・学び方

新しい体育の授業づくり

編著者 勝亦紘一 中京大学名誉教授 家田重晴 中京大学教授

体育の授業や運動部の活動を通して、
生徒が楽しみながら生涯スポーツの基礎を築くための指導者の道標

ISBN 978-4-477-02631-2 ■ B5判/208頁 ■ 定価 2,160円 (税込)



児童・生徒にはわかりやすく、
先生には扱いやすい準教科書

たのしい
体育 1~6

図説 新
中学校体育実技



B5判/オールカラー/ 52~84頁 ■ 教師用指導書付き ■ 定価 494円 (税込)

B5判/オールカラー/ 336頁 ■ 教師用指導書付き ■ 定価 785円 (税込)

大日本図書
<https://www.dainippon-tosho.co.jp>

本社 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6 【管理部供給課】 ☎ 03 (5940) 8676
中部支社 〒464-0075 名古屋市千種区内山 1-14-19 高島ビル ☎ 052 (733) 6662
関西支社 〒530-0044 大阪市北区東天満 2-9-4 千代田ビル東館 6階 ☎ 06 (6354) 7315
九州支社 〒810-0042 福岡市中央区赤坂 1-15-33 ダイアビル福岡赤坂 7階 ☎ 092 (688) 9595

クライミングで 遊びながら 体力づくり



★クライミングの効果

- 腕・腹筋・背筋・脚の筋肉に加え、バランス感覚をフル活用することで、総合的に体力を向上します。
- 大きな達成感が、自分自身への信頼と自信（セルフエスティーム）を生み出します。
- 登っている人を応援、一緒に考えることでコミュニケーション能力が育まれます。

クライミングのことなら弊社におまかせください。30年間で700ヶ所以上のクライミング施設を施工し、年間70件以上の保守点検も実施。
(国内シェア70%以上)

豊富な経験とノウハウで、安心のサポートをいたします。

東商アソシエート株式会社 クライミング事業部

〒104-0033 東京都中央区新川 1-3-3

TEL: 03-4321-0142 FAX: 03-4321-0141

<http://www.climbing-tosho.com/>

どのワークブックも
どーせ同じだね？

なに言ってんの！
「保体資料ノート」は
ほかとは全然違うよ！

**図版付
加工もできます！**

教師用の
DVD がさらに
充実した
よ～！

POINT 1

学習内容が明確に
(課題・ポイント)

右腕は頭の真後ろに
テイクバックする

体の中心から円を
くように腕を回す

足を投げる方向
に踏み出す

POINT 2

コラムでつまづき解決

Check

ハードルの近くで踏み切り、
高くとび上がってしまう

アプローチでスピードをつけて遠くから踏み切ろう。

POINT 3

思考・判断にも対応
学習カード・テスト

バレーボール
(1年)

「中学 保体資料ノート」

保健体育の先生方の中で
話題になってます！

<http://www.seishinsha.co.jp/> **正進社** SEISHINSHA

2018年、セノーは創業110周年を迎えます

110th
ANNIVERSARY 1908-2018

スポーツにかかわる、 全ての人のために。

昨日よりも速く、高く、遠く、強く、美しく
今日をやりきった明日の自分はもっとかっこいい
体育の授業も、部活も、サークルも、趣味もプロも
スポーツを愛し、スポーツにかかわる人のそばに

Senoh



公式 Twitter で
最新情報更新中！



公式 facebook で
最新情報更新中！



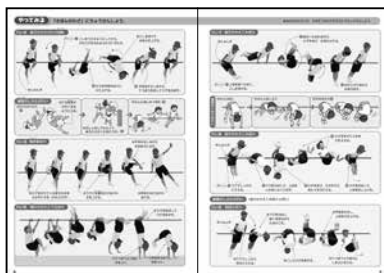


学習指導要領準拠 小学校体育科 準教科書

体育の学習

児童書 1～6年 全学年オールカラー 定価 各学年 470円(税込)

指導書 1～6年 定価 各学年 2,300円(税込)



陸上
投の運動
(低・中・高)

水泳
安全確保に
つながる運動

追加内容のイラストと
詳細な指導案を掲載！

連続写真で
わかりやすく解説！

NEW!

指導書付録
移行措置指導資料

冊子形式(2色)
B5版/16ページ

学習指導要領改訂のポイントや、
ICT機器の活用法なども収録！

『体育の学習』ご採択校には、デジタル図書教材「デジ体」を、無料でご提供いたします。

『体育の学習』対応 デジタル図書教材

デジ体

デジタル体育

DVD版 アプリ版

*DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご採択
いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。
*アプリ版は、児童書+指導書のご採択校へ認証コードを
ご提供します。認証コードで、全コンテンツが利用できます。
*アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。
対応OS:iOS8/9, Windows 8.1



よくある「つまずき」に対応した
解決法を動画で確認！

動画撮影&
保存機能も！
動きの確認や、
評価に役立つ！



アプリ版の撮影・保存機能と
とび箱運動の全動画は、認証コード不要
今すぐ、ご使用いただけます！

デジ体の
詳細は
こちら→



学ぶことが好きになる。

光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL.03-3262-3271(代表)
FAX.03-3230-4190
<https://www.kobun.co.jp>



スポーツスタッキング

3世代一緒にできるスポーツ

一般社団法人
WSSA-JAPAN 事務局
03-3995-0298
wssajapan@gmail.com
Facebook @wssajapan

認知機能の向上！左右の手を使い、脳に刺激を与えることで
機能を高めて、判断力・記憶力・集中力・学力向上にも効果が
あります！



Physical
Exercises
Gymnastics
Track&Field
Swimming
Basketball
Handball
Soccer
Volleyball
Soft Tennis
Table Tennis
Badminton
Softball
Judo
Kendo
Sumo
Dance
Skiing
Skating
Outdoor

学校体育教育の新時代をひらく あかつきの副読本&ワーク



図解
中学体育



新保健
体育ワーク



新保健
ワーク

お手もとに、ぜひ。

廣済堂あかつき株式会社

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11
☎03-3825-9188
<http://www.kosaidoakatsuki.jp/>

あかつき

「体育ICT」向けプロジェクター ～体育館使用にオススメ～

“カシオのプロジェクター”は
有害な水銀を使いません。



CASIO.

MADE IN JAPAN



XJ-F210WN

3500ルーメン

WXGA

スピーカー付

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2
製品情報 <http://casio.jp>

《機能・操作・購入先等のご相談窓口》

ナビダイヤル：0570-088988 ※全国一律料金

<http://casio.jp/support/contact/before/>

PHS・IP電話・公衆電話からは03-5334-4785

受付：月～土曜日(AM9～PM5:30) 弊社指定休業日除く

2020 年までの国際バレーボール連盟 (FIVB) 主催大会は全て
ミカサのバレーボールで行われます。

FIVB
OFFICIAL SUPPLIER



公益財団法人
日本バレーボール協会 検定球



MVA200 国際公認球 検定球 5号 一級 大学 高校
MVA300 国際公認球 検定球 5号 一級 大学 高校

Mikasa
Sports every day!
www.mikassasports.co.jp

Blanc Roche

体操着・水着・上履き
カスタムシューズ
ユニフォーム



ブランロッシュ株式会社

〒176-0006 32-15, Sakae-chyo Nerima Tokyo

Tel: 03-3994-1055

<http://www.blanc-roche.com/>

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>



本財団は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



SPES スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

School Shoes としての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性能も大切です。

協和株式会社 神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号
TEL : 078-611-4376(代)

GOLDSTAR
SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

SPES スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) 290g

ASTICO 岡山県岡山市中区江並417-1
株式会社 アスティコ TEL : 086-276-2010(代)

クロールで25m泳ぐ近道。

クロールで25

浮く運動が苦手な児童に役立つ練習用具を提案します。
卒業までに【全員が25m泳げる】のために。

がんばる先生応援サイトオープン!
各学校の水泳授業情報を配信しています。

※現役の先生を対象とした会員登録制です

<http://www.swim-teacher.jp>

検索 水泳common



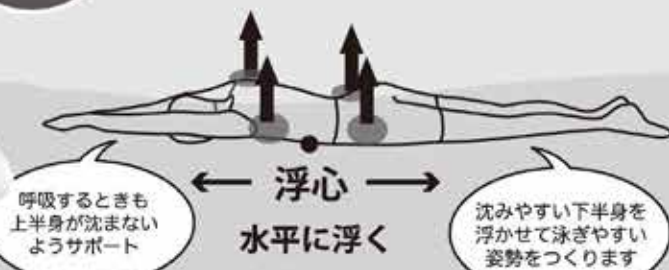
★ご登録された方にスイムキャッププレゼント★

品名:クロールで25
品番:132139
サイズ:120~170cm
カラー:紺色のみ・男女兼用
仕様:オールインワン型水着
浮力シート8枚セット
価格:4,500円(本体価格)



泳げる近道
1
着るだけで
水平に浮く

体を4点の浮力で吊り上げ、水平姿勢(ストリームライン)をつくる水着です。



泳げる近道
2
浮力が調節
できる

習得段階に合わせ浮力の調節ができます。最後は浮力シートなしで泳げるよう補助。



すまいるスイムシリーズ【超はっ水で速乾・軽量】

速乾

軽量

超はっ水

超はっ水だからできる速乾・軽量!

着用者の90%以上が軽さを実感(当社比)。



水にぬれても、肌にはりつかずさらっとした軽い着心地
超はっ水だから...「着替えがラクラク!!」

*使用後の持ち運びもラクラク! *通常の水着より速く乾きます!

安全・安心!!「赤外線盗撮」から子供達を守ります。

●水を弾き軽い! 体が浮く感じ!

●はっ水効果は3年以上持続!



赤外線盗撮防止素材を採用! 安心・安全な水泳授業を応援!
フットマークだけのオリジナル新素材!

技術企画・開発(協賛特許) 朝倉染布 株式会社 / 山田化学工業 株式会社

フットマークの新素材は、赤外線を吸収する染料加工を施すことで
悪質な赤外線盗撮を予防し、赤外線盗撮から子供達を守ります!



「生地が柔らかく脱ぎやすい!」

従来品

新商品

www.footmark.co.jp

※右記までご連絡下さい。資料等をお送り致します。

フットマーク株式会社 スクール販売部

東京都墨田区緑2-7-12 TEL:03-3634-0506

FOOTMARK®

大修館書店

■ご注文は… ☎03-3868-2651 (販売部) <https://www.taishukan.co.jp>

*定価=本体+税

本村清人 [著]

「知・徳・体」を育む 学校体育・スポーツの力

体育の価値を
再確認する
保健体育教師
必読の書!



●四六判・210頁 本体1,500円

高校保健体育教師、教育委員会指導主事、さらには文部科学省体育官といったさまざまな立場で学校体育・スポーツに関わってきた著者が、これまでの学習指導要領の作成経緯や教育理念をわかりやすく解説。改めて学校体育・スポーツの重要性を説き、その担い手である保健体育教師に激励の言葉を贈る。保健体育教師はもとより、学校長、指導主事にとっても貴重な1冊。

【主要目次】序章 スポーツ庁の設置と学校体育・スポーツの発展／第1章 「体育」「スポーツ」の位置づけと学習指導要領／第2章 教育理念「生きる力」と学校体育・スポーツ／第3章 「知・徳・体」を育む授業の要／第4章 学校体育の現場を支える人材の重要性／第5章 教育活動の一環である運動部活動の意義／終章 学校体育・スポーツの力

コアとなれ、学校体育・スポーツ!

研究と実践の架け橋になる月刊専門誌 ■毎月14日発売 ■本体830円 ■B5判

体育科教育

『体育科教育』の定期購読をおすすめします! 以下の特典があります。

① 年間購読料**9,856円**(税込) 1号分サービス! ② **送料無料!**

お申し込みは小社HPで! …こちらのQRコードからもアクセスできます▶



授業風景の
動画配信
はじめました

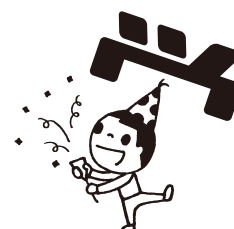
口絵カラーページで紹介している授業の動画が見られます!

いつでも
どこでも
**無料
視聴!**

雑誌にスマホをかざすだけ!



*画像はイメージです。
*別途、通信費がかかります。



学びたくなる、学びを。 **学研**

株式会社 学研教育みらい

学校教育事業本部

〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

TEL 03-6431-1151(代表)

ほしい情報が
ここにある！



学研 学校教育ネット <http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



facebook <https://www.facebook.com/gakkengakkokyoiku>

旅が、
未来の
わたしを
つくる。

www.tobutoptours.co.jp

東武トップツアーズは、全国学校体育研究大会を応援しています。



観光庁長官登録旅行業第38号 © JATA正会員・ボンド保証会員

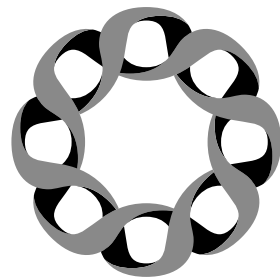
東武トップツアーズ

TOBU TOP TOURS

東武トップツアーズは、
東京2020オリンピック・パラリンピックを応援しています。



東京2020オフィシャル旅行サービスパートナー



Columbine

The Guardian of School Life



願いをカタチに

私たちは常に、
子供たちにとって
<安全>で<安心>して
学校生活を過ごせる
「良品提供」をお届けします。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

 児島株式会社

本社／〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川 2-4-60

TEL 086-473-4634 FAX086-472-0866

関東営業所／〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1085

TEL 048-642-5883 FAX048-642-4766

盛岡営業所／〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北 1-4-18

TEL 019-638-7501 FAX019-637-0144

URL:<http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail:gyomu4@kojima-gp.co.jp